

4 学則の変更の趣旨等を記載した書類

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

- ア. 学則変更（収容定員変更）の内容
- イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性
- ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う
教育課程等の変更内容

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

秋田大学医学部医学科の平成20年度以降の入学定員については、同20年度に「新医師確保総合対策」に基づき10名を、同21年度に「緊急医師確保対策」に基づき5名を、同22年度に閣議決定「経済財政改革の基本方針2009」に基づき7名を、同23年度に3名、同26年度に2名、同27年度に2名を「新成長戦略」に基づき、臨時定員増をそれぞれ実施した。

令和6年度を期限とする29名の入学定員について、令和7年度に限り再度の入学定員増を行い、令和6年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の95名から124名に変更する。

これに併せて、収容定員についても上記の入学定員増により、再度の定員増を行わなかった場合の595名から624名に変更する。

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

資料1「秋田県医師確保計画（抜粋）」に示すように、秋田県の医師数（令和2年末現在）は、2,444人であり、増加傾向にはあるが、人口10万人当たりでは254.7人と、全国平均の269.2人を大きく下回っており、全国との格差は縮まっておらず、医師の絶対数の確保が必要となっている。

また、医師の地域偏在に関しても、県庁所在地のある秋田周辺医療圏（県中部）の人口10万人当たり医師数は308.0人となっているのに対して、北秋田医療圏（県北部）や湯沢・雄勝医療圏（県南部）ではその3～4割程度にとどまり、地域における医師偏在化が顕著となっている。

さらに、人口減少、少子高齢化が急速に進行しており、深刻な医師不足は産科婦人科、小児科、麻酔科等の特定の診療科のみならず、ほとんどの診療科で医師不足の非常事態に直面している。

こうした中、秋田大学医学部医学科は、秋田県内の医師定着率向上を目的に、平成18年度から従来の入学定員の枠内で秋田県地域枠5名を設けたのに続き、「新医師確保総合対策」や「緊急医師確保対策」等を踏まえ、入学定員について、同20年度に10名、同21年度に5名、同22年度に7名、同23年度に3名、同26年度に2名、同27年度に2名の増員を図ってきた。これらの増員による入学者に対しては、秋田県と連携し、県からの奨学金を貸与（資料2）することとしている。

これらの臨時措置による増員計29名は令和6年度限りで終了することになるが、これまでの取り組みで、県内における卒後臨床研修医数は毎年70名前後、その後、引き続き大学を中心とした各科専門研修に進む医師は50名程度（全体の4割程度が地域枠）となっている。しかし、約25診療科の多くが医師不足状態であるにもかかわらず、平均すると全県で各科の新専攻医は毎年1～2名程度しか増えていない。一方、専門医が学位取得後に秋田を離れるケースも少なくないのが現状であり、さらに医師の高齢化も進んでいるため多くの診療科で厳

しい状況は続いているのが現状である。本県の場合、毎年の各科新専攻医のうち4割程度が地域枠であり、一定数の一般枠の人数がないとさらに厳しい状況に陥る。このような状況で、地域を取り巻く各科の医師不足や偏在の解消のめどが立っていないことから、地域枠入学者数の維持を目的として、29名全てについて、本申請により再度、令和7年度の定員増を行うものである。

【参考】

平成20年度から地域枠による増員を開始し、令和6年度までに394名の地域枠学生を確保してきた。令和6年5月の時点で、そのうち195名が、初期研修医・各科専門専攻医等として県内地域医療に貢献している。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

①大学と県内各地域医療機関が一体となって地域医療・プライマリケア学習を充実させた教育課程

入学者の定員増に伴い、地域枠入学者を含む全ての入学者に対し平成20年度より、入学直後からの医療面接・臨床推論・医療行動科学を中心とするプライマリケア教育を通年開始し、その評価として7月にOSCEを行った上で、2学期に県内地域医療機関および学内における早期地域医療実習を実施してきた。さらに、5年次9月末から行われてきた2週間の地域医療実習を令和元年度から3週間に拡大するとともに、その後6年次夏までの4週間ごとの選択実習においても、全期間で県内各地域医療機関での診療参加型臨床実習を行う予定となっている。集大成としての卒業時のパフォーマンス評価は、医療面接・臨床推論3課題に加え、各診療科のプライマリケア13課題（計16課題）の診療参加型臨床実習後（PCC）－OSCEを行っている。このように大学と県内地域医療機関が一体化して理想的な卒前教育を目指した展開は『秋田モデル』と称されており、令和7年度以降も引き続き実施し、その内容を充実させていく予定になっている。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

①シミュレーション教育センター

キャンパス内には東日本で最大規模のシミュレーション教育センターが設置されており、学生・学内教員のみならず県内医療機関の医療従事者にも開放し、高機能シミュレーターを用いた実技トレーニングを通して高度な手技修得を行えるよう整備している。

②県内医療機関等との連携体制

学生が県内の医療機関においてスムーズかつ効果的な臨床実習を行えるよう、本学と県内の医療機関とで「秋田大学関連病院協議会」を組織しているほか、秋田県医師会とは県内医療機関、秋田県とともに「四者懇談会」を毎年開催するなど、四位一体の連携体制を構築して全面的なバックアップを頂いている。

③様々な教育手法に基づく統合型カリキュラム

初年次からの英語による医療面接実習，学生用 Web システム，e-Learning，心エコー腹部エコーOSCE 等，新たな教育手法の開発や実践に積極的に取り組むことで，1 年次から 6 年次までをモチベーション高く，系統立てて繋ぐ統合型カリキュラムを構築している。

④総合臨床教育研修センター

県内一体化した卒前教育にシームレスにつながる形で，卒業後は総合臨床教育研修センターを中心に，初期臨床研修，さらには専門医取得や学位取得までをスムーズにサポートする体制を整えている。

(ウ) 教員組織の変更内容

①あきた医師総合支援センター

平成 25 年 4 月，秋田県からの委託事業として医学部附属病院内に開設した「あきた医師総合支援センター」では，地元・秋田の医療を支えている医師やこれから支えてゆく研修医・医学生を幅広くサポートすることを目的としており，専門医資格の取得やキャリアアップの方法などについて先輩医師が親身になって相談を受けたり，女性医師のキャリア形成支援や育児・介護相談まで，幅広く県内の医師の定着，増加に向けた活動を継続的に担っている。

本センターでは，奨学金の貸与を受けた医学生や大学院生，研修医のキャリア形成のための相談や支援も行っている。知事が指定する 4 年間は，医師不足がより顕著な秋田市以外の 2 次医療圏の病院での勤務が義務となっており，各科プログラム責任者（診療科長）とあきた医師総合支援センターが，適宜，相談してコーディネートしている。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

秋田大学全体の施設・設備については，令和 7 年度以降も学修に支障を来す変更は予定されておらず，医学部医学科においても良好な環境の整備・維持に努めていく。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料 1 : 秋田県医師確保計画 (抜粋)

資料 2 : 修学資金制度の概要

資料 3 : 令和 7 年度医学部入学定員増員計画の写し

資料 4 : 別記様式第 2 号 (その 2 の 1)

教育課程等の概要

資料 1 : 秋田県医師確保計画（抜粋）

令和 6 年 3 月

秋 田 県

第 4 節 秋 田 県 の 現 状

1 県内の医師数の推移

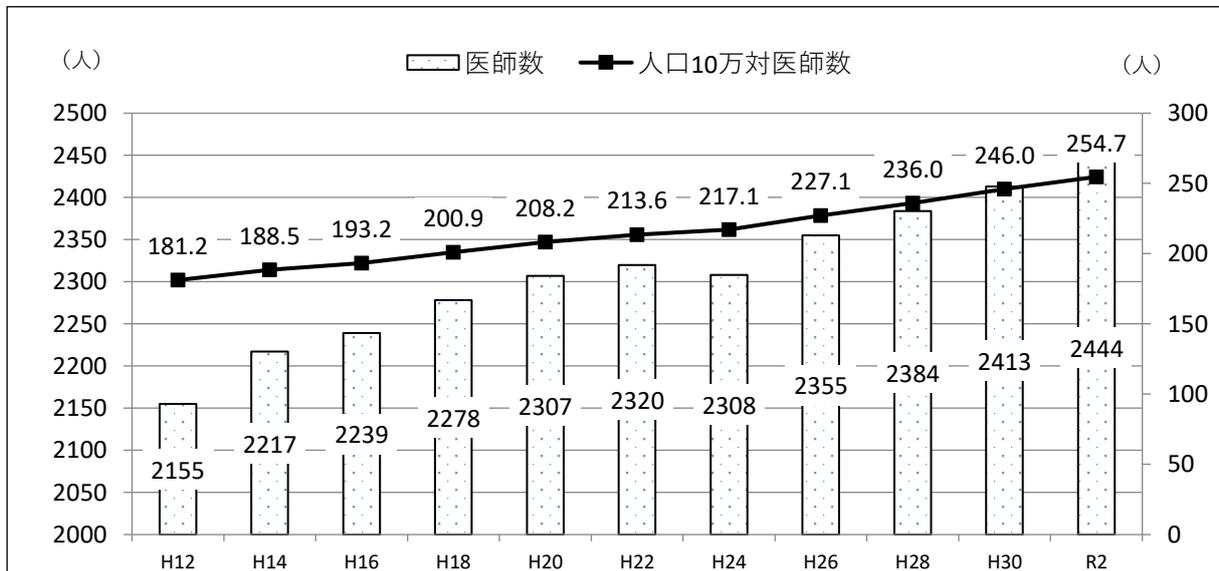
本県の医師数は、令和2年末現在で 2,444 人であり、増加傾向にはありますが、人口 10 万人当たりでは 254.7 人と、全国平均の 269.2 人を大きく下回っています。全国との格差はなかなか縮まっておらず、医師の絶対数の確保が必要となっています。

少子高齢化が急速に進んでいる本県においては、産婦人科、小児科、麻酔科等の特定の診療科のみならず、内科、整形外科、外科、眼科をはじめ、ほぼ全ての診療科で、医師不足となっています。

表 1-1 医師数の推移 (単位:人)

区分	秋 田 県		全 国 (人口 10 万対)	対全国平均 (%)
	医師数	人口 10 万対		
平成 12 年末	2,155	181.2	201.5	89.9
14 年末	2,217	188.5	206.1	91.5
16 年末	2,239	193.2	211.7	91.3
18 年末	2,278	200.9	217.5	92.4
20 年末	2,307	208.2	224.5	92.7
22 年末	2,320	213.6	230.4	92.7
24 年末	2,308	217.1	237.8	91.3
26 年末	2,355	227.1	244.9	92.7
28 年末	2,384	236.0	251.7	93.8
30 年末	2,413	246.0	258.8	95.1
令和 2 年末	2,444	254.7	269.2	94.6

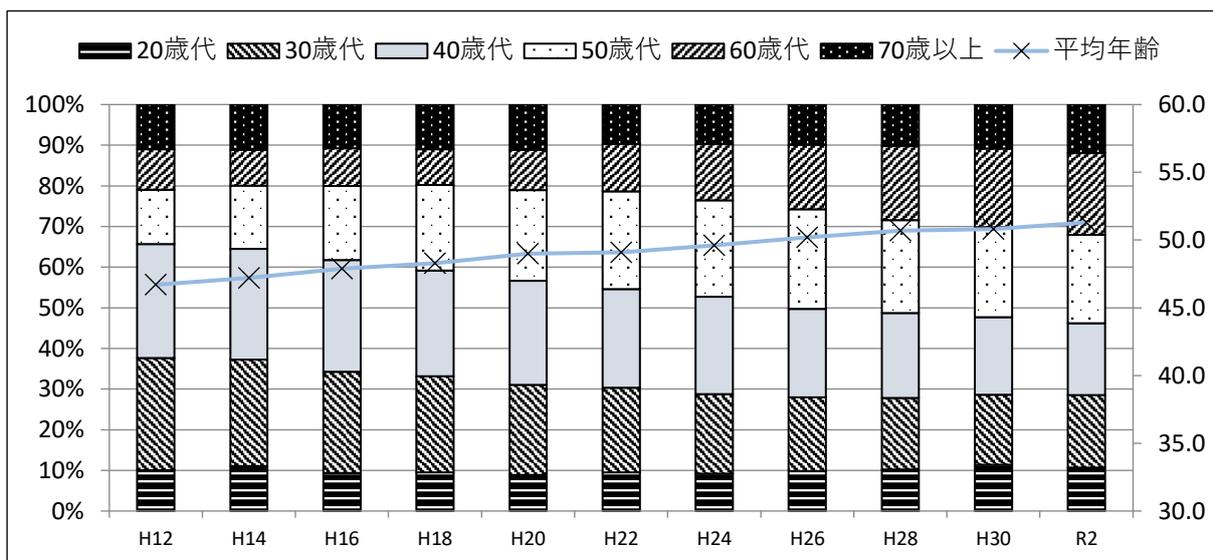
出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査(統計)」



2 医師の年齢構成・平均年齢の推移

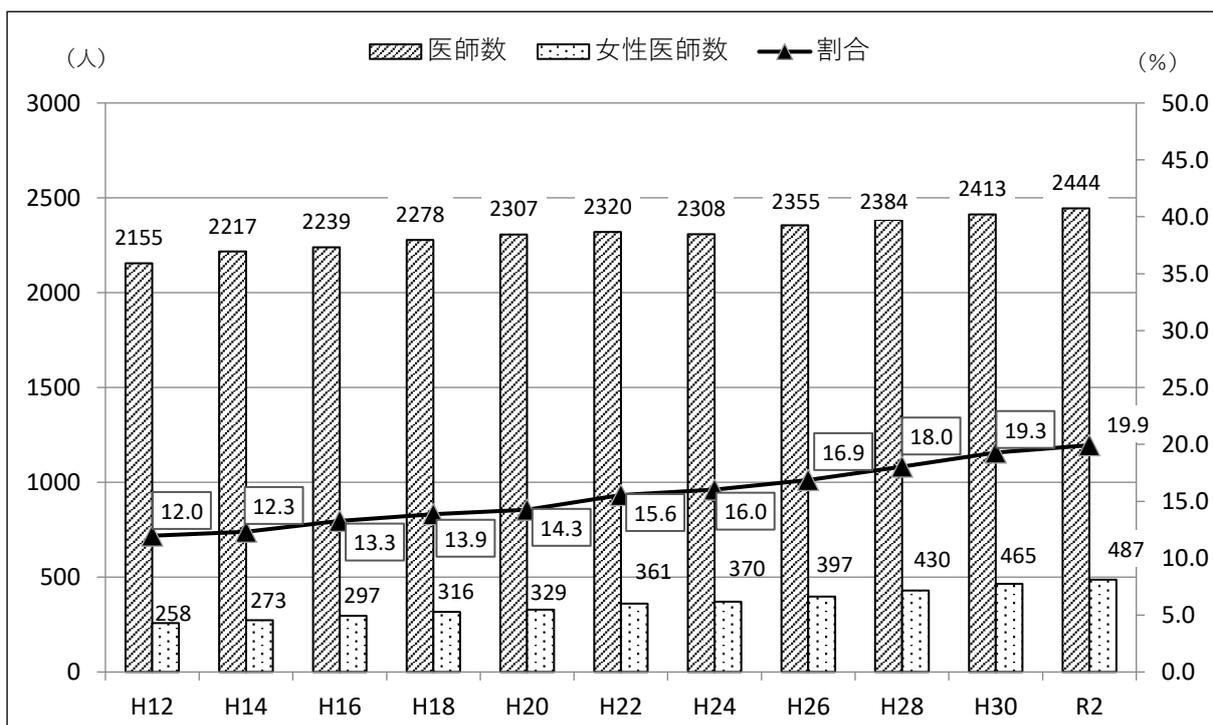
令和2年の県内医師の年齢構成のうち、60歳代（20.1%）、50歳代（21.7%）、40歳代（17.7%）で全体の約2/3（59.5%）を占めています。

平均年齢は、平成10年以降上昇を続けており、令和2年は51.3歳（全国50.5歳）となりました。



3 女性医師数の推移

医師総数に占める女性医師の割合は年々上昇し、令和2年は19.9%（全国22.8%）となっています。



4 診療科ごとの医師数の推移

外科が、平成12年頃と比較すると30人程度少なく推移しているほか、小児科や産婦人科についても微減しています。

整形外科は増加傾向にあり、精神科、泌尿器科、皮膚科は、比較的增加割合が高くなっています。それ以外の科はほぼ同数となっています。

表 1-2 診療科別医師数(人)の推移

	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	R2	H12→ R2
内科	814	825	823	810	808	833	822	827	821	810	835	102.6%
小児科	129	125	130	122	128	132	127	126	123	124	120	93.0%
精神科	125	140	146	138	152	152	147	153	149	154	158	126.4%
外科	235	233	220	221	219	204	209	205	208	219	205	87.2%
整形外科	154	163	163	152	157	159	160	165	165	168	177	114.9%
産婦人科	115	111	106	97	99	102	107	107	109	105	107	93.0%
皮膚科	46	48	52	48	48	45	49	50	52	55	58	126.1%
泌尿器科	69	72	71	74	73	75	76	77	77	83	85	123.2%
眼科	83	86	87	80	89	80	87	86	89	85	87	104.8%
脳神経外科	59	61	59	59	56	61	67	68	67	66	61	103.4%
耳鼻咽喉科	66	63	58	55	62	65	63	62	63	66	69	104.5%
リハビリテーション科	20	21	24	21	26	27	26	28	23	24	21	105.0%

出典：(厚生労働省)「医師・歯科医師・薬剤師調査(統計)」

※診療科について、次のとおり整理集約して分類しています。

内科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科(胃腸内科)、腎臓内科、脳神経内科、糖尿病内科(代謝内科)、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科
精神科	精神科、心療内科
外科	外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科(胃腸外科)、肛門外科
産婦人科	産婦人科、産科、婦人科

5 二次医療圏ごとの状況

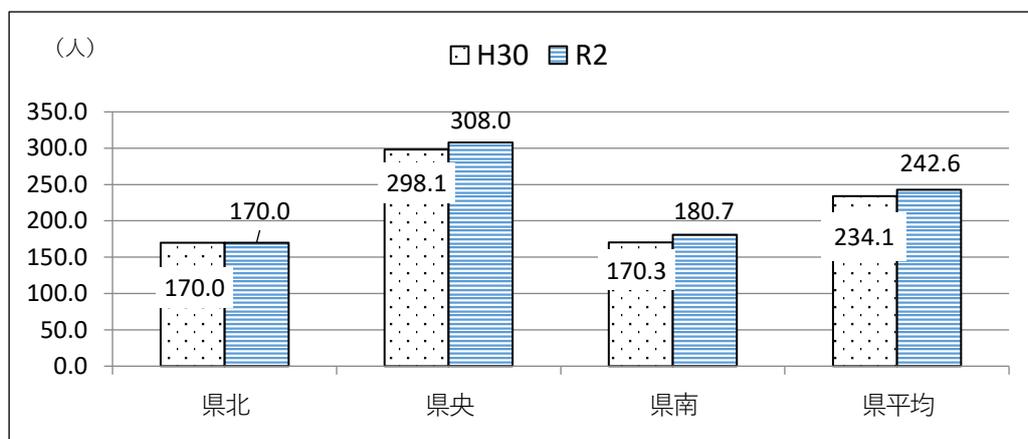
人口10万人当たりの医療施設従事医師数を医療圏別で見ると、県中央医療圏が308.0人と最も多く、最も低い県北医療圏では170.0人となっており、地域における医師偏在が顕著となっています。

また、平成30年と令和2年の数値を比較すると、県北医療圏の人口10万対医療施設従事医師数がほぼ横ばいですが、その他の二次医療圏では増加しています。

表 1-3 二次医療圏の状況 (単位:人)

区分	県北	県中央	県南	全圏域
医療施設従事医師数	357	1,492	479	2,328
人口10万対	170.0	308.0	180.7	242.6

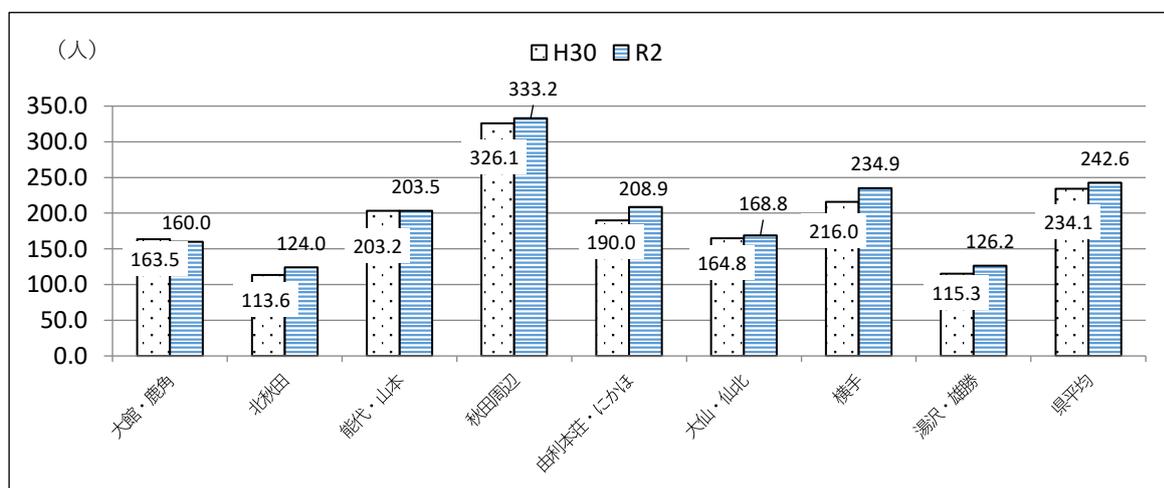
出典:「医師・歯科医師・薬剤師統計」(令和2年)



(参考:旧二次医療圏の状況)

(単位:人)

区分	大館・鹿角	北秋田	能代・山本	秋田周辺	由利本荘・にかほ	大仙・仙北	横手	湯沢・雄勝	全圏域
医療施設従事医師数	165	40	152	1,287	205	204	201	74	2,328
人口10万対	160.0	124.0	203.5	333.2	208.9	168.8	234.9	126.2	242.6

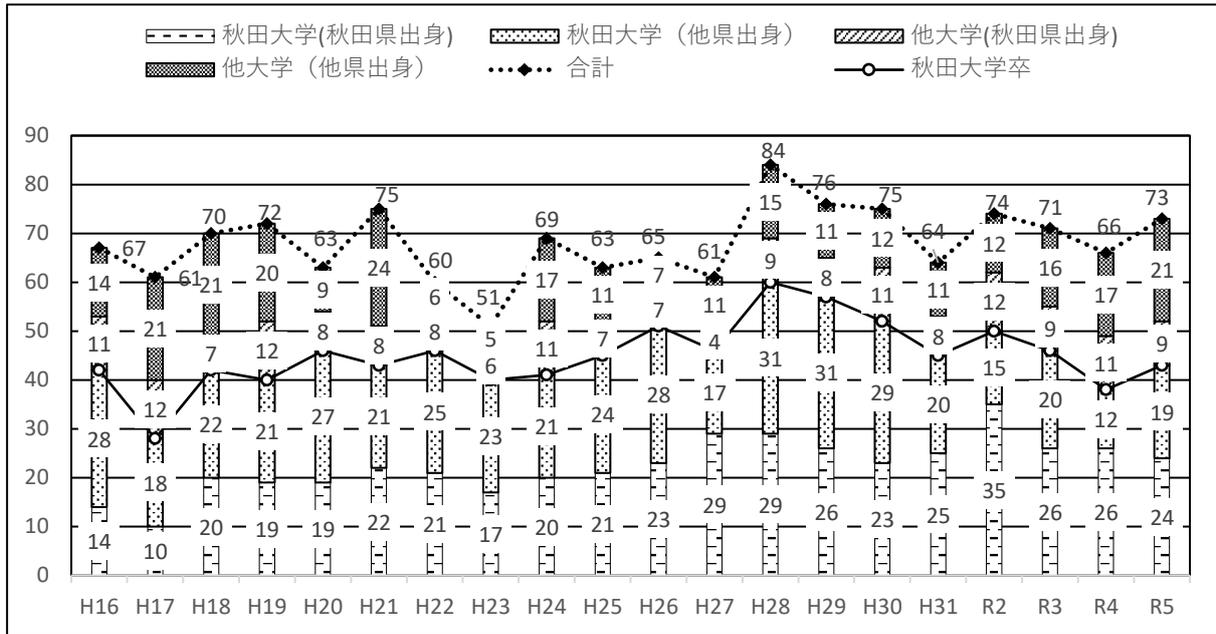


6 医師養成数等の状況

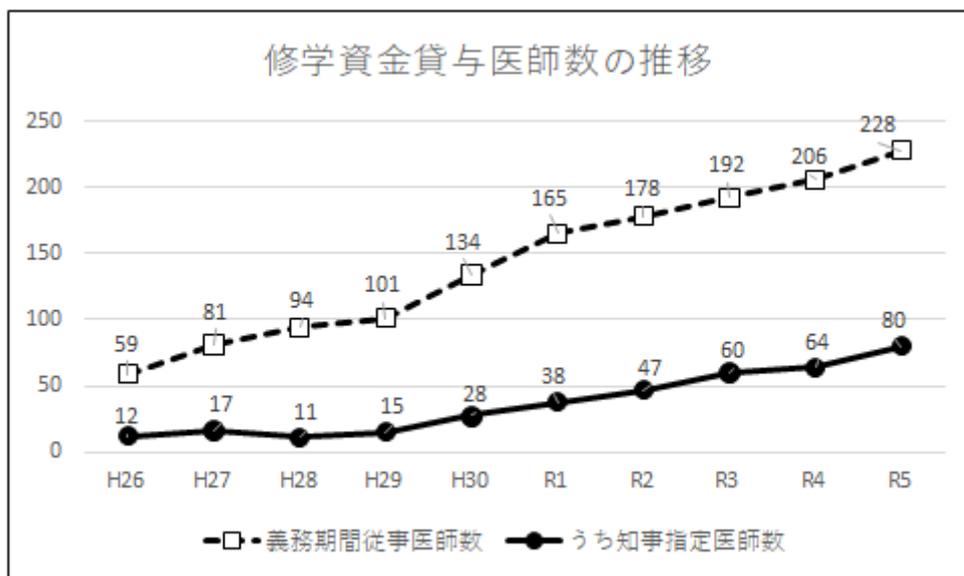
平成 16 年以降、秋田県内の臨床研修医採用数の平均は約 68 人で、最も多かったのは平成 28 年の 84 人、最も少なかったのは平成 23 年の 51 人です。

近年は、臨床研修医採用数の約 6 割から 7 割が秋田大学医学部出身者となっています。

令和 5 年は、73 人と前年度から 7 人増え、3 年ぶりに前年度比で増加となりました。



県の修学資金の貸与を受け、義務期間として県内の医療機関で勤務する医師は年々増加しており、令和 5 年時点では 228 名となっています。知事指定医療機関で勤務する医師も徐々に増え始めており、令和 5 年時点で 80 名となりました。



第2節 医師少数区域・医師多数区域

医師偏在指標の下位 33.3%に属する医療圏を医師少数区域及び医師少数都道府県と定義し、医師少数区域に属する二次医療圏又は医師少数都道府県に属する都道府県がこれを脱することを繰り返し、全ての二次医療圏及び都道府県が令和18年度までに医療ニーズを満たすことを目指します（図2-1）。

また、医師多数区域及び医師多数都道府県は、医師確保対策の遂行上の需給バランスの観点から、医師偏在指標の上位 33.3%に属する医療圏と定義されます。

第3節 本県における医師偏在指標の設定

本県に関する医師偏在指標、及び医師偏在指標算定に係る諸数値等は以下のとおりであり、県全体が医師少数県、県央医療圏を除く二次医療圏が医師少数区域、県央医療圏は医師多数区域に該当します。

1 本県の医師偏在指標算定に係る諸数値等

本県の医師偏在指標算定に関する「標準化医師数」及び「地域の人口（10万人）×地域の標準化受療率比」は、次のとおりとなります。

表 2-1 医師偏在指標算定に係る諸数値等

医療圏名	標準化医師数 (人)	医療施設 従事医師数 (人)	地域の人口 (10万人)	標準化 受療率比
全国（参考）	323,700	323,700	1,266.54	1.00
秋田県	2,334.3	2,328	9.71	1.21
県北	359.5	357	2.15	1.18
県央	1,483.8	1,492	4.85	1.26
県南	491.0	479	2.71	1.13

2 本県の医師偏在指標等

本県の医師偏在指標、区域の指定及び都道府県別又は二次医療圏別の全国順位は次のとおりとなります。

表 2-2 医師偏在指標及び区域の設定

医療圏名	医師偏在指標及び 区域の指定		順位 (位)
	全国（参考）	255.6	
秋田県	199.4	医師少数県	41 / 47
県北	142.0	医師少数区域	306 / 330
県央	243.4	医師多数区域	80 / 330
県南	159.6	医師少数区域	268 / 330

（参考 旧二次医療圏の医師偏在指標：二次医療圏変更前の暫定値）

医療圏名	医師偏在指標及び		順位 (位)
	全国（参考）	255.6	
秋田県	199.4	医師少数県	41 / 47
大館・鹿角	129.1	医師少数区域	327 / 335
北秋田	159.2	医師少数区域	271 / 335
能代・山本	155.5	医師少数区域	282 / 335
秋田周辺	261.3	医師多数区域	65 / 335
由利本荘・にかほ	173.2	医師少数区域	237 / 335
大仙・仙北	154.7	医師少数区域	284 / 335
横手	181.1		217 / 335
湯沢・雄勝	132.5	医師少数区域	322 / 335

資料2: 修学資金制度の概要

	医 学 生					大学院生
	秋田大学 地域枠	東北医科 薬科大枠	市町村 振興枠	岩手医科大学 地域枠	元気枠	
貸与対象者	・秋田大学医 学生 ※地域枠合格 者	・東北医科薬 科大学医学生	・医学生	・岩手医科大 学医学生 ※秋田県地域 枠合格者	・秋田大学医 学生	・大学院生 ※公私立、学 年、出身は問わ ず
貸与額	・月額15万円 (自宅通学者は10万円) ・入学料相当額28万2千円 (1年生のみ)			・月額30万 円 ・入学料相当 額加算無し	・月額20万 円	・月額30万円 ・入学料相当額 28万2千円 (1年生のみ)
貸与期間	・大学卒業まで(最長6年間)				・大学卒業まで	・大学院修了ま で(最長4年 間)
返還免除要件						
勤務先	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業後、1年6月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務 ・返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等に勤務(平成20年度以降、貸与開始者に限る) ・市町村振興枠の知事指定勤務先は、自治体病院診療所が優先(ただし診療所の勤務にあっては1年を限度とする) 					<ul style="list-style-type: none"> ・大学院又は研修修了後、直ちに知事が指定する公的医療機関等に勤務
診療科	・限定なし					<ul style="list-style-type: none"> ・知事が別に定める診療科(産婦人科、小児科、麻酔科、精神科、外科、循環器内科、消化器内科) ※専門研修医のみ上記診療科及び総合診療科
勤務期間	・貸与期間の1.5倍の期間					・貸与期間と同じ期間
返還	・返還免除要件を満たさない場合、貸与額に年10%の利息を付した額を、1年以内に月賦又は半年賦で返還					
返還猶予	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、大学院に在学しているとき ・災害や疾病、負傷によりやむを得ず医師の業務に従事できないとき 					

令和7年度
医学部入学定員増員計画秋大総第 465 号
令和6年8月22日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人秋田大学長
南 谷 佳 弘

「地域の医師確保等の観点からの令和7年度医学部入学定員の増加について（令和6年8月7日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	医学系研究科・医学部総務課 総括主査 笹村浩介
	TEL	018-884-6006
	FAX	018-834-8619
	E-mail	k-sasamura@jimu.akita-u.ac.jp

大学名	国公立
秋田大学	国立

1. 現在（令和6年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
124	5	0	769

↑
(収容定員計算用)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
(ア) 入学定員	124	124	124	124	124	124	744
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	129	129	129	129	129	124	769

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和7年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	5	0	595

↑
(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	95	95	95	95	95	95	570
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	95	595
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和7年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
124	5	0	624

↑
(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	124	95	95	95	95	95	599
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	129	100	100	100	100	95	624
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **29**

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	29
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	
計	29

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 | 29

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県 秋田県	29
大学所在地以外の都道府県	
計	29

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R5とR6の貸与 者数のうち多い 方の数
秋田県	29	29	29	29	29
					0
					0
					0
					0
計	29	29	29	29	29

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和7年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和5年度に実施した地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数	選抜方法(※1)		出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
地域枠	(i) 学校推薦 型選抜	別枠(先行 型)	25	25	大学入学共通テストの成績、調査書、推薦書、志願理由書、小論文および面接の結果を総合して判定する。	次の(1)から(5)の要件すべてに該当する者 (1) 秋田県内の高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)を令和5年3月以降に卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者 (2) 入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者 (3) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長(高等学校長等)が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者 (4) 調査書の学習成績概評がA段階(全体の学習成績の状況が4.3以上)の者 (5) 本学他学部および他の国公立大学の学 校推薦型選抜に申し出ていない者	無		H21以前	秋田県地域枠：20人程度、全国地域枠5人程度 全国地域枠の場合、出願要件①が下記の要件となる。 ① 秋田県外の高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を令和5年3月以降に卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者 ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和4年4月以降に修了した者および令和6年3月修了見込みの者
地域枠	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・ 後期)	別枠(区別 型)	4	4	大学入学共通テストの成績、本学が実施する個別学力検査等の成績および調査書の内容を総合して判定する。	次のいずれかに該当する者 ① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者 ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和6年3月修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第150条(第6号を除く。)の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる次のアからカのいずれかに該当する者および令和6年3月31日までここに該当する見込みの者 ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者 ロ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者 工 文部科学大臣の指定した者 才 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定期程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)で18歳に達したもの カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものと なお、医学部医学科後期日程の秋田県地域枠に出席する場合は、上記①から③のいずれかの出願資格に加えて、「秋田県内の高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)を卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者」および「入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者」が	無		R2	
合計			29	29						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

② **令和6年度に実施する地域枠学生(令和7年入学)**の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。
また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合) その診療科名	開始年度	備考
			地域枠	うち臨時定員分						
地域枠	(i) 学校推薦 型選抜		24	24	大学入学共通テストの成績、調査書、推薦書、志願理由書、小論文および面接の結果を総合して判定する。	次の(1)から(5)の要件すべてに該当する者 (1) 秋田県内の高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)を令和6年3月以降に卒業した者および令和7年3月卒業見込みの者 (2) 入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者 (3) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長(高等学校長等)が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者 (4) 調査書の学習成績評価がA段階(全体の学習成績の状況が4.3以上)の者 (5) 本学他学部および他の国公立大学の学校推薦型選抜に出席していない者	無		R6	
地域枠	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	5	5	大学入学共通テストの成績、本学が実施する個別学力検査等の成績および調査書の内容を総合して判定する。	次のいずれかに該当する者 ① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和7年3月卒業見込みの者 ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和7年3月修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第150条(第6号を除く。)の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる次のアからカのいずれかに該当する者および令和7年3月31日までにこれに該当する見込みの者 ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者 ウ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者 エ 文部科学大臣の指定した者 オ 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定期程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)で18歳に達したもの カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものの なお、医学部医学科後期日程の秋田県地域枠に出席する場合は、上記①から③のいずれかかの出願資格に加えて、「秋田県内の高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)を卒業した者および令和7年3月卒業見込みの者」および「入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者」が	無		R6	
合計			29	29						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

① 地域枠学生が卒業後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和7年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

<p>プライマリケアを担う総合的な診療能力を修得するために必修講義として、入学直後から1年次通年（毎週火曜日3～4コマ）で主要症候の臨床推論学習と医療面接演習を行い、評価してのOSCEを1年次7月・12月に47テーマ・シナリオで実施することにより4年次共用試験OSCEおよびその後のレベル向上を図っている。1年次10月からは学内・県内地域医療機関への早期臨床実習・地域医療実習を3日間実施する。2年次では、地域医療講義、多職種連携・地域包括ケアPBLの講義を1週間行う。また、総合診療・検査診断学講座と総合診療医センター（令和2年度設置）において、関連する講義及び実習を補強する。集大成として04年次10月からの診療参加型臨床実習（1年目CC1,2年目CC2）では、CC1において、学内の診療科で1年間実習後、5年次10月に3週間の秋田県研修病院実習（必修）を行う。その後のCC2においては、学内・外の各分野を4～5週間単位×7ケル（選択）で実施するが、そのうちの1ケルを秋田市以外の県内医療機関による地域包括ケアを含む地域医療実習（必修）として実施している。</p>	<p>（参考：記入例） 1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～を学んでいる。またキヤリア支援として□□を実施している。令和7年度からは、■を新たに開始するなど、～を図ることとしている。</p>
--	--

② （過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

<p>平成20年度から地域枠による増員を開始し、令和6年度までに394名の地域枠学生を確保し、上記の教育の取り組み（地域枠に特化せず、一般枠も含め全員に必修で行っている。）を行ってきた。令和6年5月の時点で、そのうち195名が、初期研修医・各科専門専攻医等として県内地域医療に貢献している。</p>	<p>（参考：記入例） 平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■などの取組を行ってきた。令和6年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～として地域医療に貢献している。</p>
---	--

③ 上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 （※1）	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年次	初年次ゼミ「医学」I	全員	必修	必修	講義	1	H22
1年次	初年次ゼミ「医学」II	全員	必修	必修	講義	1	H22
1年次	医療行動科学	全員	必修	必修	実習	3	H22
2年次	地域医療・コミュニケーションとチーム医療	全員	必修	必修	講義	1	H22
4年次	総合診療・臨床検査	全員	必修	必修	講義	1	H30
5年次	地域医療実習	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
5年次	秋田県研修病院実習	全員	必修	必修	実習	2	R1
6年次	地域医療実習	全員	必修	必修	実習	2	R1

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：〇週間)	プログラムの概要 (1～2行程度)	開始年度

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和5年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要 (1～2行程度)	開始年度
高校訪問講義	主な県内各地域の高校において医師を目指す高校生に対し最新の医学教育について入学前教育を毎年度実施している。これまで1,572名の参加があった。	H22
メディカルセミナー	医学科に興味がある県内高校生に対し、医学部における医学教育、臨床、研究、地域医療の魅力について、その実際を見学したり、実践的に学ぶセミナーを毎年度開催している。	H23

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

令和6年度

学校推薦型選抜学生募集要項



国立大学法人秋田大学
Akita University

【医学部】

◆育てる人間像

医学部では、豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観および学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成します。

●求める人物像

1. 病気に悩む人々の痛みや苦しみを理解し真摯な態度で接することができる人
2. 医療・保健・福祉の発展を目指して一生涯にわたり医学の研鑽にたゆみない努力を継続できる人
3. 素直で協調性に富み、周囲の人々と円滑な人間関係を築けるコミュニケーション能力を持つ人

[医学科]

●求める人物像

1. 地域医療への理解と共感を有し、将来の医師としての強い倫理観を持ち、住民の健康・福祉に寄与できる人
2. 基礎および臨床医学や社会医学の研究に深い関心を持ち、国際性を備えた研究者としての資質を有する人
3. 大学入学後の学業に支障ないだけの隔たりのない基礎学力を持ち、生命科学に対する関心を持つ将来性豊かな人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- | | |
|-------|---|
| 国 | 語—文化・社会の理解に求められる読解と表現に関わる幅広い基礎知識およびコミュニケーション能力 |
| 英 | 語—国際社会に求められる読解と表現に関わる幅広い基礎知識およびコミュニケーション能力 |
| 数 | 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解とそれらを活かせる数学的思考力 |
| 地歴・公民 | —将来、地域や国際社会で良識をもった人間として活躍するために必要な知識や教養 |
| 理 | 科—「生物」、「化学」および「物理」の幅広い知識と科学的な探究心 |
| そ の 他 | —ストレスに負けない体力と精神力、周囲の人々との協調性 |

●入学者選抜の基本方針

《学校推薦型選抜》

高等学校等において学業その他に優れた成績を修め、感性豊かな人間性を持ち、他者に対するいたわりと共感する心を有するとともに、医療・医学への研究志向を有する知的好奇心に満ちた学生を求めます。

そのため、大学入学共通テストで「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価し、個別学力検査等で、小論文と面接を課して「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」「将来性」を評価し、調査書を面接の参考資料として「主体性・多様性・協働性」、「将来性」を評価します。

地域枠による選抜については、秋田県修学資金受給の意思、卒業後に秋田県内の公的医療機関に勤務する意欲、地域医療の充実と向上に貢献する気概と意欲の有無を重視して選抜します。

●入学者選抜方法における重点評価項目

入 試 区 分	入学者選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性)		将来性
				関心・意欲・態度	協働性	
学校推薦型選抜Ⅱ	大学入学共通テスト	○	○			
	小論文	○	○	○		
	面接		○	○	○	○
	推薦書			○	○	○
	調査書			○	○	○

1 募集人員（学校推薦型選抜Ⅱ）

学 部	学科・課程・専攻・コース・枠		募集人員	
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	3人	
		資源地球科学コース	4人	
		資源開発環境コース	5人	
	小 計		12人	
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	9人	
		英語教育コース	2人	
		理数教育コース	8人	
		こども発達コース	6人	
	地域文化化学科	22人		
小 計		47人		
医 学 部	医 学 科	一 般 枠	20人	
		地 域 枠	秋田県地域枠	医学科地域枠の募集人員は現在申請予定です。(※)
			全国地域枠	
	小 計		20人(※)	
合 計			79人(※)	

※ 医学科地域枠の募集人員は決定次第ホームページでお知らせいたしますのでご確認ください。

2 推薦の要件

国際資源学部

学科・コース		推 薦 の 要 件
国 際 資 源 学 科	資源政策コース	次の(1)から(3)の要件すべてに該当する者 (1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和6年3月卒業見込みの者（令和5年度の途中で卒業を認められる者を含む。） ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和6年3月修了見込みの者（令和5年度の途中で修了を認められる者を含む。） (2) (1)の学校における学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者 (3) 本学他学部および他の国公立大学の学校推薦型選抜に出願していない者
	資源地球科学コース	
	資源開発環境コース	

医学部

学科・枠		推薦の要件
医 学 科	一 般 枠	<p>次の(1)から(3)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和6年3月卒業見込みの者（令和5年度の途中で卒業を認められた者を含む。）</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和6年3月修了見込みの者（令和5年度の途中で修了を認められた者を含む。）</p> <p>(2) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の学習成績の状況が4.3以上）に属する者のうち、本学科への入学に固い意志を持ち、特に医学の分野で将来にわたり活躍を期待する十分な資質を有すると思われる者で、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 本学他学部および他の国公立大学の学校推薦型選抜に出願していない者</p>
医 学 科	地 域 枠	<p>次の(1)から(5)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 秋田県内の高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）を令和5年3月以降に卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者</p> <p>(3) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(4) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の学習成績の状況が4.3以上）の者</p> <p>(5) 本学他学部および他の国公立大学の学校推薦型選抜に出願していない者</p>
	* 以下 必 読	<p>次の(1)から(5)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 秋田県外の高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和5年3月以降に卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和4年4月以降に修了した者および令和6年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者</p> <p>(3) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(4) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の学習成績の状況が4.3以上）の者</p> <p>(5) 本学他学部および他の国公立大学の学校推薦型選抜に出願していない者</p>

* 【医学部医学科：秋田県地域枠および全国地域枠に関する事項】

地域枠の出願にあたっては「秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム」を必読し、秋田県医学生修学資金制度を理解のうえ、出願してください。

秋田県医学生修学資金について

URL <https://common3.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/study-funding/student>

あきたの医師・医療情報総合サイト「秋田の医療情報、みてたんせ」

>秋田県の修学資金制度>医学生向け修学資金>秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム

問合せ先：秋田県医療人材対策室 電話番号 018-860-1410

秋田の医療情報
みてたんせ
QRコード



実技検査の内容

教育文化学部 学校教育課程 教育実践コース	
<p>【音楽】 実技の内容：1～3のジャンルから2つを選択し、演奏する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ（任意の楽曲を選び、暗譜で演奏） 2. 声楽（以下の4曲から1曲を選び、原語および暗譜で演奏） <ol style="list-style-type: none"> a. 成田為三作曲 浜辺の歌 変イ長調（2番まで） b. A. カルダーラ作曲 Sebben, crudele 二短調 c. Ch. W. グルック作曲 O del mio dolce ardor ホ短調 d. G. F. ヘンデル作曲 Lascia ch'io pianga ヘ長調（レチタティーヴォを含む） <p>※ 伴奏は本学教員が担当します。伴奏譜は本学で用意します。</p> 3. 管楽器，弦楽器，打楽器，和楽器 （1つの楽器を選び、任意の独奏曲を暗譜，無伴奏で演奏） <p>※ 無伴奏の作品は独奏譜を，ピアノ伴奏付き独奏曲は伴奏譜を出願時に提出してください。 なお，楽譜には楽器名を記載し，学校推薦型選抜Ⅱと明記してください。 使用する楽器は次に示すものとし，各自持参してください。 ただし，マリンバ（Cスケール，4オクターヴ）は大学で用意します。</p> <p>管楽器・・・フルート，オーボエ，クラリネット，サクソフーン，ファゴット，ホルン， トランペット，トロンボーン，ユーフォニアム，テューバ</p> <p>弦楽器・・・ヴァイオリン，ヴィオラ，チェロ，コントラバス</p> <p>打楽器・・・マリンバ</p> <p>和楽器・・・三味線，箏，尺八</p> 	
<p>【美術】 実技の内容：基礎的な立体および平面の造形（3時間） ※ 実技検査に必要なものは本学で用意します。</p>	

医学部

学科・専攻等		実施教科等		受験を要する教科等
		教科等	採点・評価の観点，基準等	
医学科	一般枠	小論文	社会・文化・自然科学・医療等に関する日本語および英語の文章を素材にしていくつかの設問をし，それに対して論述させ，理解力・思考力・表現力等をみます。	小論文および面接
		面接	調査書を参考に，医師としての適性，即ちコミュニケーション能力・科学的思考・論理的思考，医師としての倫理性，社会への関心度，積極性・意欲・将来性等について評価します。（集団面接）	
	秋田県地域枠 全国地域枠	小論文	社会・文化・自然科学・医療等に関する日本語および英語の文章を素材にしていくつかの設問をし，それに対して論述させ，理解力・思考力・表現力等をみます。	小論文および面接
		面接	調査書を参考に，地域医療に貢献する強い意欲，医師としての適性，即ちコミュニケーション能力・科学的思考・論理的思考，医師としての倫理性，社会への関心度，積極性・意欲・将来性等について評価します。（個別面接）	

大学入学共通テストの成績，調査書，推薦書，志願理由書，小論文および面接の結果を総合して判定します。

〔医学部〕

教科・科目		受験を要する教科・科目名																														
		国語	地理歴史				公民			数学				理科				外国語														
学部・学科・専攻	パターン	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	
		医学部	医学科	◎	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○
		1	1								1	1						2				1										

◎は必ず受験する科目、×は本学では採用しない科目、○および△は選択して受験を要する科目、その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし、△の科目については、選択できる者に制限があります。

〔医学部における注意事項〕

- ア 地理歴史においては、同一名称のA・B出題科目、公民においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- イ 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- ウ 英語にはリスニングテストを含みます。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディング（100点満点）の成績を200点満点に換算して利用します。
- エ 大学入学共通テストで1科目を指定しているもののうち、地理歴史・公民の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。

(3) 大学入学共通テストおよび個別学力検査等の配点【学校推薦型選抜Ⅱ】

学部・学科・課程等		試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	実技検査	小論文	面接	合計			
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	大学入学共通テスト 200 (200×1.0×1)	200 (100×1.0×2)	100 (100×1.0×1)		200 (200×1.0×1)				700	1000		
		個別学力検査							300	300				
	資源地球科学コース	大学入学共通テスト	200 (200×1.0×1)		300 (100×1.5×2)	300 (100×1.5×2)	200 (200×1.0×1)				1000	1300		
		個別学力検査							300	300				
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	大学入学共通テスト	200×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	200×2/3			600	1000		
		個別学力検査						#200	#200	200	400			
		英語教育コース	大学入学共通テスト	200 (200×1.0×1)	100 (100×1.0×1)	50 (100×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	300 (200×1.5×1)					700	1000
		個別学力検査							300	300				
	理数教育コース	大学入学共通テスト	200×7/9	100×7/9	200×7/9	200×7/9	200×7/9				700	1000		
個別学力検査								300	300					
こども発達コース	大学入学共通テスト	100 (200×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	100 (200×0.5×1)				450	750		
個別学力検査							200	100	300					
地域文化学科	大学入学共通テスト	#100 (200×0.5×1)				#100 (200×0.5×1)					100	500		
個別学力検査								200	200	400				
医学部	医学科	大学入学共通テスト	100 (200×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	100 (100×0.5×2)	100 (100×0.5×2)	100 (200×0.5×1)				450	700		
個別学力検査								100	150	250				

注1：大学入学共通テスト欄の（ ）内は、大学入学共通テストの素点、傾斜率および科目数を示します。(素点×傾斜率×科目数)

注2：大学入学共通テストの理科の素点は、「基礎を付した科目」2科目で100点、「基礎を付さない科目」1科目選択で100点とします。

注3：大学入学共通テストの外国語で「英語」を選択した場合は、「リーディング」と「リスニング」の配点比率を国際資源学部と教育文化学部英語教育コースは1：1、教育文化学部（英語教育コースを除く）と医学部は4：1とします。

なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディング（100点満点）の成績を、200点に換算して利用します。

注4：教育文化学部の大学入学共通テスト欄の※印は、このうちから必要科目を選択するものです。

注5：教育文化学部学校教育課程教育実践コースの個別学力検査等欄の#印は、1つを選択するものです。

注6：教育文化学部地域文化学科の大学入学共通テスト欄の#印はどちらかの1教科を指定するものですが、2教科とも受験した場合は、高得点の教科を合格判定に用います。

(4) 合格者の決定方法

学部等	合格者の決定方法												
国際資源学部	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等の得点の総合点に基づいて合格者を決めます。 2 総合点在同点の場合は同順位として取り扱います。 3 欠員が生じた場合は、前期日程試験あるいは後期日程試験で補充します。 												
教育文化学部	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等を総合的に判断し合格者を決めます。ただし、大学入学共通テストの合格判定に用いる科目と個別学力検査等に無得点の科目がある場合は、合計点にかかわらず合格者としません。 なお、合計点在同点の場合は同順位として取り扱います。 2 次の課程・学科では、個別学力検査等のうちの指定科目の得点が基準点に満たない者は、合計点にかかわらず合格者としません。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">課程・学科・コース</th> <th style="width: 50%;">指定科目（基準点：総点の4割）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校教育課程・教育実践コース</td> <td>小論文（80点）、実技検査（80点）、面接（80点）</td> </tr> <tr> <td>学校教育課程・英語教育コース</td> <td>面接（120点）</td> </tr> <tr> <td>学校教育課程・理数教育コース</td> <td>面接（120点）</td> </tr> <tr> <td>学校教育課程・こども発達コース</td> <td>小論文（80点）、面接（40点）</td> </tr> <tr> <td>地域文化学科</td> <td>小論文（80点）、面接（80点）</td> </tr> </tbody> </table>	課程・学科・コース	指定科目（基準点：総点の4割）	学校教育課程・教育実践コース	小論文（80点）、実技検査（80点）、面接（80点）	学校教育課程・英語教育コース	面接（120点）	学校教育課程・理数教育コース	面接（120点）	学校教育課程・こども発達コース	小論文（80点）、面接（40点）	地域文化学科	小論文（80点）、面接（80点）
課程・学科・コース	指定科目（基準点：総点の4割）												
学校教育課程・教育実践コース	小論文（80点）、実技検査（80点）、面接（80点）												
学校教育課程・英語教育コース	面接（120点）												
学校教育課程・理数教育コース	面接（120点）												
学校教育課程・こども発達コース	小論文（80点）、面接（40点）												
地域文化学科	小論文（80点）、面接（80点）												
医学部	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等を総合的に判断し合格者を決めます。 2 面接において面接員が「不可」の評価をした場合は、合格者としません。 3 地域枠の選抜においては、僻地医療を含む地域医療に貢献する意欲等を勘案して総合的に判定します。 												

4 試験の日程

学部等		試験日	集合時刻	小論文	面接	実技検査および面接	
国際資源学部	国際資源学科	令和6年1月19日(金)	8:30	—	9:00～17:00	—	
教育文化学部	実技検査選択者	令和6年1月19日(金)	8:30	—	—	9:00～18:00	
	英語教育コース, 理数教育コース		8:30	—	9:00～17:00	—	
	上記以外の者		8:30	9:00～10:00	10:30～18:00	—	
医学部	医学科	一般枠	令和6年1月18日(木)	8:30	9:00～11:00	11:30～18:00	—
		秋田県地域枠 および 全国地域枠	令和6年1月18日(木)	8:30	9:00～11:00	—	—
		令和6年1月19日(金)	8:30	—	9:00～18:00	—	

注：面接の終了時刻は、受験者数により変わる場合があります。

5 試験場

学部	試験場
国際資源学部	秋田大学国際資源学部試験場（手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号）
教育文化学部	秋田大学教育文化学部試験場（手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号）
医学部	秋田大学医学部試験場（本道キャンパス：秋田市本道一丁目1の1）

6 受験上の注意事項

- ① 試験当日は、「令和6年度秋田大学受験票」および「令和6年度大学入学共通テスト受験票」を忘れずに必ず持参してください。なお、試験室棟に入る際には、両方の受験票を係員に提示してください。また、試験時間中は両方の受験票を机の上に置いてください。
- ② 試験当日は、受験者は8時10分から試験室棟へ入ることができます。
- ③ 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後10分以内の遅刻に限り、受験を認めます。
- ④ 試験時間中の答案提出は認めません。
- ⑤ 小論文の試験室では、受験票、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く。）、定規、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く。）、目薬、眼鏡、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけを取り出したもの）以外のものは、机の上に置くことはできません。
- ⑥ 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類を持参した場合は、試験室棟に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中、かばん等にしまわずに、身につけていたり手に持っていた場合は、不正行為となることがあります。
- ⑦ 不正行為を行った場合は以後の受験は認められず、個別学力検査等の受験は失格となります。不正行為に該当する行為は、令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト受験案内に記された不正行為の内容に準じます。
- ⑧ 試験場・試験室において、他の受験者の迷惑になる行為は行わないでください。
- ⑨ 試験場の下見は、試験前日の13時から17時までの間に行ってください。なお、下見は試験室棟入口までとし、試験室棟には入れません。
- ⑩ 試験前日および試験当日は、受験者および付添者の車両による入構を禁止します。なお、試験当日、試験場には、受験者および付添者の控室を設けています。
- ⑪ 受験者（特に遠隔地からの者）は、**荒天等による交通機関の乱れを考慮し**、前日までに秋田市内に到着する等ゆとりをもった日程を組むほか、衣類・履物等にも留意してください。
- ⑫ 本道キャンパス（医学部）は附属病院に隣接していることから感染対策のため、マスクの着用をお願いしております。受験者本人ならびに付添者の方もマスクの着用をお願いいたします。特別な事情等によりマスクを着用することができない場合は、事前に入試課（TEL 018-889-2256）へご連絡願います。また、手形地区（国際資源学部、教育文化学部）で受験する方で試験当日に体調の悪い方、家族や身近に感染症に罹患している人がいる方などは、感染対策としてマスクの着用を推奨いたします。

令和6年度

一般選抜学生募集要項



国立大学法人 秋田大学
Akita University

令和6年度秋田大学一般選抜日程

大学入学共通テスト

令和6年1月13日(土)・14日(日)

(追試験 令和6年1月27日(土)・28日(日))

一般選抜出願期間(前期日程・後期日程) 令和6年1月22日(月)～2月2日(金)

インターネット出願サイトで手続きを行い、印刷した書類および調査書等を、原則として郵送により送付してください。
(2月2日必着)
インターネット出願サイトは、1月17日(水)10時から登録が可能となります。

2段階選抜における第1段階選抜の結果発表
(医学部医学科のみ対象)

2月9日(金)

前期日程	試 験 日	2月25日(日)・26日(月)	25日全学部で実施。教育文化学部教育実践コースの実技検査受験者と医学部医学科受験者のみ2日間
	合格者発表	3月 7日(木)	
	入 学 手 続	3月14日(木)・15日(金)	
後期日程	試 験 日	3月12日(火)	
	合格者発表	3月21日(木)	
	入 学 手 続	3月26日(火)・27日(水)	
追加合格者の決定 ・入学手続		3月28日(木) から	

【医学部】

◆育てる人間像

医学部では、豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観および学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成します。

●求める人物像

1. 病気に悩む人々の痛みや苦しみを理解し真摯な態度で接することができる人
2. 医療・保健・福祉の発展を目指して一生涯にわたり医学の研鑽にたゆみない努力を継続できる人
3. 素直で協調性に富み、周囲の人々と円滑な人間関係を築けるコミュニケーション能力を持つ人

[医学科]

●求める人物像

1. 地域医療への理解と共感を有し、将来の医師としての強い倫理観を持ち、住民の健康・福祉に寄与できる人
2. 基礎および臨床医学や社会医学の研究に深い関心を持ち、国際性を備えた研究者としての資質を有する人
3. 大学入学後の学業に支障ないだけの隔たりのない基礎学力を持ち、生命科学に対する関心を持つ将来性豊かな人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- | | | |
|-------|---|--|
| 国 | 語 | —文化・社会の理解に求められる読解と表現に関わる幅広い基礎知識およびコミュニケーション能力 |
| 英 | 語 | —国際社会に求められる読解と表現に関わる幅広い基礎知識およびコミュニケーション能力 |
| 数 | 学 | —「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解とそれらを活かせる数学的思考力 |
| 地歴・公民 | — | 将来、地域や国際社会で良識をもった人間として活躍するために必要な知識や教養 |
| 理 | 科 | —「生物」、「化学」および「物理」の幅広い知識と科学的な探究心 |
| そ | の | 他—ストレスに負けない体力と精神力、周囲の人々との協調性 |

●入学者選抜の基本方針

《一般選抜（前期日程）》

論理的思考能力と国際性に優れ、医師としての適性を備えた学生を選抜します。特に、地域医療への理解、医学に対する知的関心と学習意欲、社会貢献への意欲を有する学生を求めます。

そのため、大学入学共通テストで「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価し、個別学力検査等で英語および数学の2教科と面接を課して「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「将来性」を評価し、調査書を面接の参考資料として「主体性・多様性・協働性」「将来性」を評価します。

《一般選抜（後期日程）》

幅広い人間的視野を備え、人間性・創造性豊かな医師や医学研究者となりうる適性、資質、意欲を備えた人材を求めます。

そのため、大学入学共通テストで「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価し、個別学力検査等で小論文と面接を課して「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」、「将来性」を評価し、調査書を面接の参考資料として「主体性・多様性・協働性」、「将来性」を評価します。

秋田県地域枠による選抜については、秋田県修学資金受給の意思、卒業後に秋田県内の公的医療機関に勤務する意欲、地域医療の充実と向上に貢献する気概と意欲の有無を重視して選抜します。

●入学者選抜方法における重点評価項目

入試区分	入学者選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性)		将来性
				関心・意欲・態度	協働性	
一般選抜（前期）	大学入学共通テスト	○	○			
	個別学力検査（教科）	○	○			
	面接		○	○	○	○
	調査書			○	○	○
一般選抜（後期）	大学入学共通テスト	○	○			
	小論文	○	○	○		
	面接		○	○	○	○
	調査書			○	○	○

I 募集人員

学部・学科・課程 専攻・コース			入 学 定 員	募 集 人 員								私 費 外 国 留 学 生 入 試	渡 日 前 入 学 許 可 制 度 に よ る 私 費 外 国 留 学 生 入 試	外 国 人 留 学 生 特 別 入 試	国 際 バ カ ロ レ ア 入 試
				一 般 選 抜		総 合 型 選 抜			学 校 推 薦 型 選 抜						
				前 期 日 程	後 期 日 程	I		II	I	II					
						出 願 資 格 A	出 願 資 格 B								
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	120	20	7	4		-	-	3	5	-	1	若干名	
		資源地球科学コース		20	5	4		-	-	4					
		資源開発環境コース		24	7	7		-	-	5					
	計		120	64	19	15		-	-	12	5	-	5		
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	110	24	8	-		-	4	9	若干名	-	-	若干名	
		英語教育コース		6	2	-		-	-	2					
		理数教育コース		9	3	-		-	-	8					
		特別支援教育コース		12	3	-		-	-	-					
		こども発達コース		10	4	-		-	-	6					
	小 計		110	61	20	-		-	4	25					
	地域文化学科		100	58	10	10		-	-	22					
計		210	119	30	10		-	4	47						
医学部	医 学 科		124	注1 55	注2 24	-		-	-	注3 45	注1 若干名	-	-	-	
	保健学	看護学専攻	106	30	5	-		35	-	-	若干名				
		理学療法学専攻		8	2	-		8	-	-					
		作業療法学専攻		6	3	-		9	-	-					
	小 計		106	44	10	-		52	-	-					
計		230	99	34	-		52	-	45						
理工学部	生命科学科	生命科学コース	45	注4 a 15	6	8	2	4	-	-	2	若干名	-	若干名	
		b 8													
	物質科学科	応用化学コース	110	a 32	14	8	2	3	-	-	4				
		材料理工学コース		b 31		7	4	3	-	-	2				
	数理工学情報科学科	数理科学コース	120	a 34	18	4	-	2	-	-	3				
		電気電子工学コース		b 24		7	7	7	-	-	2				
		人間情報工学コース				5	2	3	-	-	2				
システム工学部	機械工学コース	120	a 35	17	11	5	6	-	-	5					
	土木環境工学コース		b 26		5	2	7	-	-	1					
計		395	注5 205	注5 55	55	24	35	-	-	21					
合 計			955	487	138	104		87	4	104	26	-	5		

注1：医学部医学科の一般選抜前期日程の募集人員には、私費外国人留学生入試の募集人員（若干名）を含みます。

注2：24人のうち一般枠20人，秋田県地域枠4人となります。

注3：45人のうち一般枠20人，地域枠25人（秋田県地域枠20人程度，全国地域枠5人程度）となります。

注4：aとbでは大学入学共通テストと個別学力検査の配点が異なります。配点については35ページを参照してください。

注5：理工学部一般選抜（前期日程・後期日程）で合格した入学者は、入学した学科内の一つのコースへの配属を2年次進級の際に決定します。（生命科学科を除く。）

Ⅱ 一般選抜

1 出願資格

次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和6年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条（第6号を除く。）の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる次のアからカのいずれかに該当する者および令和6年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - エ 文部科学大臣の指定した者
 - オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）で18歳に達したもの
 - カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

* ③のカによる出願は、本学において個別の入学資格審査を要するので、53～54ページを参照のうえ、申請してください。

なお、医学部医学科後期日程の秋田県地域枠に出願する場合は、上記①から③のいずれかの出願資格に加えて、「秋田県内の高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）を卒業した者および令和6年3月卒業見込みの者」かつ「入学後は秋田県の修学資金の貸与を受けるとともに、医師免許取得後は、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って、定められた期間、義務履行することを確約できる者」が出願要件となります。

* 【医学部医学科：秋田県地域枠に関する事項】

地域枠の出願にあたっては、「秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム」を必読し、秋田県医学生修学資金制度を理解のうえ、出願してください。

秋田県医学生修学資金について

URL：<https://common3.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/study-funding/student>

あきたの医師・医療情報総合サイト「秋田の医療情報、みてたんせ」

> 秋田県の修学資金制度 > 医学生向け修学資金 > 秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム

問合せ先：秋田県医療人材対策室 電話番号 018-860-1410

秋田の医療情報

みてたんせ

QRコード



2 入学者選抜方法等

(1) 選抜方法

大学入学共通テストの成績、本学が実施する個別学力検査等の成績および調査書の内容を総合して判定します。

なお、令和6年度大学入学共通テストにおいて、志望する学科、課程、専攻、コースの課す教科・科目のすべてを受験していない場合は出願しないでください。また、志望する学科、課程、専攻、コースの課す個別学力検査等の教科・科目等をすべて受けなければ合格者となりえません。

（大学入学共通テストの前年度以前の成績は利用しません。必ず、令和6年度大学入学共通テストを受験してください。）

(2) 2段階選抜

医学部医学科において、入学志願者が前期日程の募集人員（55名）の5倍、後期日程の一般枠、秋田県地域枠、それぞれの募集人員（一般枠20名、秋田県地域枠4名）の10倍を超えた場合、大学入学共通テストの成績（5教科7科目の素点計。ただし、英語はリーディングとリスニングの配点比率を4：1として200点満点に換算）により第1段階選抜を行うことがあります。

前期日程・後期日程ともに、**令和6年2月9日（金）14時以降に本学ホームページ**で次のとおりお知らせします。

- ① 第1段階選抜を実施した場合は、ホームページに実施した旨を掲載します。
また、合格者には、インターネット出願時に登録したメールアドレスに「合格通知および受験票印刷可能通知メール」を、不合格者には「不合格通知メール」を送付します。なお、不合格者はメールに記載の内容に従って入学検定料返還手続を行ってください。
- ② 第1段階選抜を実施しなかった場合は、本学ホームページに実施しなかった旨を掲載します。44ページ「(6)受験票の印刷」の通知に従って受験票を印刷してください。
なお、第1段階選抜実施結果（可否）に関する電話の問い合わせには応じません。
また、2月14日（水）までに①または②の通知が届かない場合は、秋田大学入試課（電話018-889-2256）へ問い合わせてください。

(3) 受験方式の選択

理工学部の前期日程において、a、bの方式を設け、それぞれの方式で募集します。(以下「前期a」「前期b」とします。)

- ・前期aと前期bでは大学入学共通テストと個別学力検査の配点が異なります。各方式の配点については、35ページを参照してください。
- ・出願時にいずれかの方式を選択してください。出願後の変更はできません。

(4) 第2志望

国際資源学部および理工学部において、学部に限り以下のとおり第2志望を認めます。
(第1志望：国際資源学部、第2志望：理工学部といった別の学部を志望することはできません)

【国際資源学部】

国際資源学部の資源地球科学コースと資源開発環境コースは前期日程・後期日程とも第2志望を認めます。

なお、第1志望で資源政策コースを志望する者は、第2志望を選択することはできません。資源地球科学コースまたは資源開発環境コースを第1志望とする者は、第2志望として資源政策コースを選択することはできません。

○は、第2志望とすることができるコース

第2志望とするコース		前期日程			後期日程		
		国際資源学科			国際資源学科		
		資源政策コース	科学資源地球コース	環境資源開発コース	資源政策コース	科学資源地球コース	環境資源開発コース
国際資源学部	資源政策コース		×	×		×	×
	資源地球科学コース	×		○	×		○
	資源開発環境コース	×	○		×	○	

【理工学部】

- ・前期日程において、第2志望は、前期a、前期bそれぞれの方式内でのみ全学科で認めます。
- ・後期日程において、第2志望は、全学科で認めます。
- ・前期日程の個別学力検査で「生物」を選択する者にとっては、第2志望が認められない学科があります。(31ページ参照)

〔医学部〕

教科・科目			受験を要する教科・科目名																														
学部・学科等	日程	パターン	国語	地理歴史				公民			数学					理科					外国語												
			国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	
医学部	医学科	前期後期	◎	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		1					1							1		1										2					1		
		①	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
		1					1							1		1											1					1	
	保健学科	看護学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻	前期後期	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
			1					1							1		1											2					1
			②	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
			1					1							1		1											2					1
保健学科	看護学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻	前期後期	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		1					2							1		1											2					1	
		③	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		1					2							1		1											2					1	
保健学科	看護学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻	前期後期	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		1					2							1		1											2					1	
		④	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		1					2							1		1											1					1	

◎は必ず受験する科目、×は本学では採用しない科目、○および△は選択して受験を要する科目、その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし、△の科目については、選択できる者に制限があります。

〔医学部における注意事項〕

- ア 地理歴史においては、同一名称のA・B出題科目、公民においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- イ 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- ウ 理科で「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を選択する場合には、「同一名称を含む科目」を選択することができます。
- エ 英語にはリスニングを含みます。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディング（100点満点）の成績を200点満点に換算して利用します。
- オ 大学入学共通テストで1科目を指定しているものうち、地理歴史・公民の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- カ 大学入学共通テストで1科目を指定しているものうち、「基礎を付さない」理科の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- キ それぞれのパターンのいずれかを満たすように受験してください。複数のパターンを満たす場合は、高得点のパターンを合格判定に用います。

〔理工学部〕

教科・科目			受験を要する教科・科目名																													
学部・学科・コース	日程	パターン	国語	地理歴史				公民			数学					理科					外国語											
			国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
理工学部	生命科学科 生命科学コース 物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース 数理・電気電子情報学科 数理工学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース	前期後期	①	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
			1					1						1		1											1					1
		②	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
			1					1						1		1											2					1

◎は必ず受験する科目、×は本学では採用しない科目、○および△は選択して受験を要する科目、その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし、△の科目については、選択できる者に制限があります。

〔理工学部における注意事項〕

- ア 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校の専門教育を主とする学科（理数科を除く。）または総合学科の卒業（見込み）者ならびに文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- イ 理科で「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を選択する場合には、「同一名称を含む科目」を選択することができます。
- ウ 英語にはリスニングを含みます。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディング（100点満点）の成績を200点満点に換算して利用します。
- エ 大学入学共通テストで1科目を指定しているものうち、地理歴史・公民の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- オ それぞれのパターンのいずれかを満たすように受験してください。

(6) 個別学力検査等の実施教科・科目等

【前期日程】

学部・学科・課程 専攻・コース		実 施 教 科 等		受験を要する 教科等	
		教科等	出 題 科 目 お よ び 範 囲 採 点 ・ 評 価 の 観 点 ， 基 準 等		
国際資源学部	資源政策コース	国 語	「国語総合」の近代以降の文章。(古文、漢文との融合問題を含むことがあります。)	2教科	
		外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ(英語資格等の活用制度あり。37ページ参照)		
	資源地球科学コース	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	3教科 [理科は、物理、 化学、生物、地学 から1科目選択]	
		理 科	(物理)		物理基礎・物理
			(化学)		化学基礎・化学
			(生物)		生物基礎・生物
外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ(英語資格等の活用制度あり。37ページ参照)				
資源開発環境コース	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	3教科 [理科は、物理、 化学、生物、地学 から1科目選択]		
	理 科	(物理)		物理基礎・物理	
		(化学)		化学基礎・化学	
		(生物)		生物基礎・生物	
		(地学)		地学基礎・地学	
外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ(英語資格等の活用制度あり。37ページ参照)				
教育文化学部	教育実践コース	国 語	「国語総合」の近代以降の文章。(古文、漢文との融合問題を含むことがあります。)	4教科等(実技検査を含む。)から2教科等選択	
		数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B		
		外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ		
		実技検査	32ページ参照		
	英語教育コース	国 語	「国語総合」の近代以降の文章。(古文、漢文との融合問題を含むことがあります。)	2教科と小論文 および面接	
		外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ(スピーキングを含みます。)		
		小論文	英語教員の資質形成の基礎となる論理的思考能力および英語運用能力を英語によるライティングテストを通してみます。 多様な人々と協働して学ぶ態度および英語教育を追究する意欲および適性を、日本語による面接を通してみます。		
	理数教育コース	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	2教科から1教科選択 [理科選択の場合、 物理、化学、生物、 地学から1科目]	
		理 科	(物理)		物理基礎・物理
			(化学)		化学基礎・化学
(生物)			生物基礎・生物		
特別支援教育コース こども発達コース	国 語	「国語総合」の近代以降の文章。(古文、漢文との融合問題を含むことがあります。)	3教科から2教科選択		
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B				
地域文化学科	国 語	「国語総合」の近代以降の文章。(古文、漢文との融合問題を含むことがあります。)	3教科から2教科選択		
	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B			
	外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ			
医 学 部	医 学 科	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	2教科と面接	
		外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ		
	保健 学 科	面 接	医師としての適性、即ちコミュニケーション能力・科学的思考・論理的思考、医師としての倫理性、社会への関心度、積極性・意欲・将来性等について評価します。 (個別面接)	1教科と面接	
看護学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻	外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ			
理 工 学 部	生命科学科 生命科学コース 数理・電気電子情報学科 数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	2教科 [理科は、物理、 化学、生物から 1科目選択]	
		理 科	(物理)		物理基礎・物理
			(化学)		化学基礎・化学
			(生物)		生物基礎・生物
	物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	2教科 [理科は、物理、 化学から1科目 選択]	
		理 科	(物理)		物理基礎・物理
	(化学)		化学基礎・化学		

注1) 数学の数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aの出題範囲は、高等学校学習指導要領に記載されている全項目を出題範囲とします。ただし、数学Bは「数列」および「ベクトル」を出題範囲とします。

注2) 理工学部の前期 a、前期 b における試験問題は同一のものです。

【後期日程】

学部・学科・課程・コース		実 施 教 科 等		受験を要する 教科等
		教科等	出 題 科 目 お よ び 範 囲 採 点 ・ 評 価 の 観 点 , 基 準 等	
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	小論文 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価します。	小論文 および 面接
		面接 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」, 「主体性・多様性・協働性」を重点的に評価します。		
		資源地球科学コース	小論文 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価します。	小論文 および 面接
面接 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」, 「主体性・多様性・協働性」を重点的に評価します。				
		資源開発環境コース	小論文 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価します。	小論文 および 面接
		面接 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」, 「主体性・多様性・協働性」を重点的に評価します。		
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	実技検査 34ページ参照	実技検査 または 小論文
		小論文 教員の資質形成の基礎となる読解力, 理論的思考能力, 個性的な発想力, 文章表現力をみます。		
		面接 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をみるために, これまでの学業や課外活動等の取り組みや業績及び入学後の意欲を評価します。	面接	
	英語教育コース	外国語(英語)	コミュニケーション英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, 英語表現Ⅰ, Ⅱ (スピーキングのみです。)	英語, 小論文 および面接
		小論文 英語教員の資質形成の基礎となる論理的思考能力および英語運用能力を英語によるライティングテストを通してみます。		
	面接 多様な人々と協働して学ぶ態度および英語教育を追究する意欲および適性を, 日本語による面接を通してみます。			
	理数教育コース	面接 板書等による記述を含む, 思考力, 表現力を問う面接を行います。また, 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をみます。	面接	
	特別支援教育コース	小論文 教育や福祉, 障害に関する基礎的なテーマについて, 論理構成力, 独創性, 文章表現力をみます。	小論文 および 面接	
		面接 主体的に特別支援教育への理解を深め, 多様な人々と協働して障害のある人を支援する意欲や態度をみます。		
	こども発達コース	記述問題 現代の文化・社会や教育・保育に関する資料を素材にして設問し, 論述させ, 文章や図表の理解力, 思考力および表現力をみます。	記述問題 および 面接	
面接 教育, 保育および子どもの発達に関する試問を含む面接を通して, 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度や, 目的意識, 学習意欲, 思考力および表現力をみます。				
地域文化学科	小論文 社会や文化に関する課題文に提起されている問題点を的確に読み取り, 高等学校等までで学んだ基礎知識に基づいてその問題点を考察し, 自分の見解を論理的かつ説得力をもって文章化する能力をみます。	小論文 および 面接		
	面接 地域文化学科における人材養成の目的・目標をよく理解したうえで, 志望理由および入学後の学習の目標等を明確かつ簡潔に表現できる能力をみます。同時に関連諸分野への関心の高さおよび主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をみます。			
医学部	医 学 科	小論文 社会・文化・自然科学・医療等に関する日本語および英語の文章を素材にしていくつかの設問をし, それに対して論述させ, 理解力・思考力・表現力等をみます。	小論文 および 面接	
		面接 医師としての適性, 即ちコミュニケーション能力・科学的思考・論理的思考, 医師としての倫理性, 社会への関心度, 積極性・意欲・将来性等について評価します。(個別面接)		
	保健学科	看護学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻	小論文 医療技術者としての適正と資質を判断するため, 思考力, 洞察力, 表現力などをみます。	小論文 および 面接
面接 人の健康・生活に対する関心や理解, 学習意欲と目的意識, 他者への共感とコミュニケーション能力, 協調性などをみます。				
理工学部	生命科学科 生命科学コース 物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース 数理・電気電子情報学科 数理学科コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース	数 学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学A, 数学B (数学の出題範囲は, 高等学校学習指導要領に記載されている全項目を出題範囲とします。ただし, 数学Bは「数列」および「ベクトル」を出題範囲とします。)	数 学 および 面接
		面接 「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」, 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価します。(個別面接または集団面接)		

(7) 大学入学共通テストおよび個別学力検査等の配点

【前期日程】

学部・学科・課程等		試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	実技検査	小論文	面接	調査書	合計	
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	大学入学共通テスト 200 (200×1.0×1)	200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	100 (100×1.0×1)	200 (200×1.0×1)				900	1420	
		個別学力検査等	250				250			20	520		
	資源地球科学コース 資源開発環境コース	大学入学共通テスト	200 (200×1.0×1)	50 (100×0.5×1)	200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	200 (200×1.0×1)				850	1320	
		個別学力検査等			200	150	100			20	470		
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	大学入学共通テスト 200×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	200×2/3				600	1010	
		個別学力検査等	#200		#200		#200	#200		10	410		
		英語教育コース	大学入学共通テスト 200×7/10	※100×7/10 ※100×7/10	※100×7/10 ※100×7/10	※100×7/10 ※100×7/10	200×1.5 ×7/10				700		1010
		個別学力検査等	100				注6 125		75	10	310		
	理数教育コース	大学入学共通テスト	200×7/9	100×7/9	200×7/9	200×7/9	200×7/9				700	1010	
		個別学力検査等			*300	*300				10	310		
	特別支援教育コース こども発達コース	大学入学共通テスト	200×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	200×2/3				600	1010	
		個別学力検査等	#200		#200		#200			10	410		
地域文化学科	大学入学共通テスト	200×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	200×2/3				600	1010		
	個別学力検査等	#200		#200		#200			10	410			
医学部	医学科	大学入学共通テスト	100 (200×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	100 (100×0.5×2)	200 (100×1.0×2)	100 (200×0.5×1)				550	950	
		個別学力検査等			100		100		200	400			
	保健学科	看護学専攻	大学入学共通テスト	160 (200×0.8×1)	※80 (100×0.8×1) ※80 (100×0.8×1)	160 (100×0.8×2)	※80 (100×0.8×1) ※80 (100×0.8×1)	160 (200×0.8×1)				720	1030
			個別学力検査等					100		100	200		
		理学療法学専攻 作業療法学専攻	大学入学共通テスト	140 (200×0.7×1)	※70 (100×0.7×1) ※70 (100×0.7×1)	140 (100×0.7×2)	※70 (100×0.7×1) ※70 (100×0.7×1)	140 (200×0.7×1)				630	
			個別学力検査等					200		200	400		
理工学部	生命科学科 生命科学コース 物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース 数理・電気電子情報学科 数理工学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース	a	大学入学共通テスト	100 (200×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	200 (200×1.0×1)			750	1170	
			個別学力検査等			250	150			20	420		
	b	大学入学共通テスト	25 (200×0.125 ×1)	25 (100×0.25×1)	100 (100×0.5×2)	100 (100×0.5×2)	100 (200×0.5×1)				350	1170	
		個別学力検査等			500	300			20	820			

- 注1：大学入学共通テスト欄の（ ）内は、大学入学共通テストの素点、傾斜率および科目数を示します。（素点×傾斜率×科目数）
 注2：大学入学共通テストの理科の素点は、「基礎を付した科目」2科目選択で100点、「基礎を付さない科目」1科目選択で100点とします。
 注3：大学入学共通テストの外国語で「英語」を選択した場合は、「リーディング」と「リスニング」の配点比率を、国際資源学部と教育文化学部英語教育コースおよび理工学部は1：1とし、教育文化学部（英語教育コースを除く）と医学部は4：1とします。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディング（100点満点）の成績を200点満点に換算して利用します。
 注4：教育文化学部および医学部保健学科の大学入学共通テスト欄の※印は、このうちから必要科目を選択するものです。
 注5：教育文化学部の個別学力検査欄の#印は、2教科を選択し、*印は1教科を選択するものです。
 注6：教育文化学部学校教育課程英語教育コースの外国語（英語）の配点内訳は、筆記75点、スピーキング50点とします。
 注7：理工学部のa・bにおける個別学力検査の試験問題は、同一のものです。
 注8：調査書を点数化して評価している学部・学科・コースにおいて、調査書が提出できない志願者の場合（高等学校卒業後一定期間が経過して発行されない場合、高等学校卒業程度認定試験合格者等）は、別途提出していただく「中学校卒業後の活動内容について」で評価します。

【後期日程】

学部・学科・課程等		試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	実技検査	小論文	面接	合計		
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	大学入学 共通テスト 200 (200×1.0×1)	200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	100 (100×1.0×1)	200 (200×1.0×1)				900	1400	
		個別学力 検査等							200	300	500		
国際資源学部	国際資源学科	資源地球科学コース	大学入学 共通テスト 200 (200×1.0×1)	50 (100×0.5×1)	300 (100×1.5×2)	300 (100×1.5×2)	200 (200×1.0×1)				1050	1350	
		資源開発環境コース	個別学力 検査等						200	100	300		
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	大学入学 共通テスト 200×7/9	※100×7/9 ※100×7/9	※100×7/9 ※100×7/9	※100×7/9 ※100×7/9	200×7/9				700	1050	
		個別学力 検査等						#300	#300	50	350		
		英語教育コース	大学入学 共通テスト 200 (200×1.0×1)	100 (100×1.0×1)	50 (100×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	300 (200×1.5×1)					700	1050
		個別学力 検査等					100		200	50	350		
		理数教育コース	大学入学 共通テスト 200×8/13	100×8/13	(200×2)×8/13	(200×2)×8/13	200×8/13					800	1050
		個別学力 検査等								250	250		
特別支援教育コース	大学入学 共通テスト 200×5/9	※100×5/9 ※100×5/9	※100×5/9 ※100×5/9	※100×5/9 ※100×5/9	200×5/9					500	1050		
個別学力 検査等							250	300	550				
こども発達コース	大学入学 共通テスト 200×5/9	※100×5/9 ※100×5/9	※100×5/9 ※100×5/9	※100×5/9 ※100×5/9	200×5/9					500	1050		
個別学力 検査等							250 [記述]	300	550				
地域文化学科	大学入学 共通テスト 200×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	※100×2/3 ※100×2/3	200×2/3						600	1050		
個別学力 検査等							300	150	450				
医学部	医学科	一般枠	大学入学 共通テスト 150 (200×0.75×1)	50 (100×0.5×1)	150 (100×0.75×2)	200 (100×1.0×2)	150 (200×0.75×1)				700	1000	
		個別学力 検査等							100	200	300		
医学部	医学科	秋田県地域枠	大学入学 共通テスト 100 (200×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	100 (100×0.5×2)	100 (100×0.5×2)	100 (200×0.5×1)				450	700	
個別学力 検査等							100	150	250				
医学部	保健学科	看護学専攻	大学入学 共通テスト 160 (200×0.8×1)	※80 (100×0.8×1) ※80 (100×0.8×1)	160 (100×0.8×2)	※80 (100×0.8×1) ※80 (100×0.8×1)	160 (200×0.8×1)				720	920	
		個別学力 検査等						100	100	200			
医学部	保健学科	理学療法専攻 作業療法専攻	大学入学 共通テスト 140 (200×0.7×1)	※70 (100×0.7×1) ※70 (100×0.7×1)	140 (100×0.7×2)	※70 (100×0.7×1) ※70 (100×0.7×1)	140 (200×0.7×1)				630	1030	
個別学力 検査等							200	200	400				
理工学部	生命科学科 物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース 数理・電気電子情報学科 数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース	大学入学 共通テスト	100 (200×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	200 (200×1.0×1)				750	1050	
		個別学力 検査等				100				200	300		

- 注1：大学入学共通テスト欄の（ ）内は、大学入学共通テストの素点、傾斜率および科目数を示します。（素点×傾斜率×科目数）
 注2：大学入学共通テストの理科の素点は、「基礎を付した科目」2科目選択で100点、「基礎を付さない科目」1科目選択で100点とします。
 注3：大学入学共通テストの外国語で「英語」を選択した場合は、「リーディング」と「リスニング」の配比率を、国際資源学部と教育文化学部英語教育コースおよび理工学部は1：1とし、教育文化学部（英語教育コースを除く）と医学部は4：1とします。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディング（100点満点）の成績を200点満点に換算して利用します。
 注4：教育文化学部および医学部保健学科の大学入学共通テスト欄の※印は、このうちから必要科目を選択するものです。
 注5：教育文化学部学校教育課程教育実践コースの個別学力検査欄の#印は、1科目等を選択するものです。
 注6：教育文化学部学校教育課程こども発達コースの小論文欄は、記述問題の配点を示します。

(8) 英語資格等の活用

国際資源学部では、次の①から⑤のいずれかの要件を満たしている者は、個別学力検査の「英語」科目を免除し、満点と換算して合否判定します。「英語」科目免除の可否については、別途通知します。

英語資格等	スコア等
①TOEFL iBT	61点以上
②TOEFL ITP	500点以上
③TOEIC L&R	730点以上
④IELTS	6.0以上
⑤英検	準1級以上

注) 令和4年(2022年)1月以降に受験したものを対象とします。当該スコア等を証明する書類を出願書類と同時に提出してください。(43ページ<該当者が提出するもの>参照)

(9) 合格者の決定

学部等	試験日程	合格者の決定方法																								
国際資源学部	前期日程 後期日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等(前期日程は調査書の得点を含む。)の総合点に基づき合格者を決めます。 2 第2志望は、第1志望のコースが募集人員を充足し、かつ第2志望のコースがまだ募集人員を充足しない場合においてのみ、合格者の対象となります。 3 総合点が同点の場合には、同順位として取り扱いします。 																								
教育学部	前期日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等(調査書の得点を含む。)の総合点に基づき合格者を決めます。ただし、大学入学共通テストの合格判定に用いる科目と個別学力検査等(調査書の得点を除く。)に無得点の科目がある場合は、合計点にかかわらず合格者としません。なお、総合点が同点の場合には、同順位として取り扱いします。 2 次の課程では、個別学力検査のうちの指定科目の得点が基準点に満たない者は、合計点にかかわらず合格者としません。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>課程・コース</th> <th>指定科目(基準点:総点の4割)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校教育課程・教育実践コース</td> <td>筆記試験(80点), 実技検査(80点)</td> </tr> </tbody> </table> 3 学校教育課程教育実践コースでの合格予定者数は、個別学力検査等の選択科目ごとに、おおむね次のとおりとします。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>受験科目</th> <th>合格予定者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語, 英語または数学から2科目受験者</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>実技検査(音楽)受験者</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>実技検査(美術)受験者</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>実技検査(体育)受験者</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> 	課程・コース	指定科目(基準点:総点の4割)	学校教育課程・教育実践コース	筆記試験(80点), 実技検査(80点)	受験科目	合格予定者数	国語, 英語または数学から2科目受験者	15人	実技検査(音楽)受験者	2人	実技検査(美術)受験者	2人	実技検査(体育)受験者	5人										
	課程・コース	指定科目(基準点:総点の4割)																								
学校教育課程・教育実践コース	筆記試験(80点), 実技検査(80点)																									
受験科目	合格予定者数																									
国語, 英語または数学から2科目受験者	15人																									
実技検査(音楽)受験者	2人																									
実技検査(美術)受験者	2人																									
実技検査(体育)受験者	5人																									
後期日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等の総合点に基づき合格者を決めます。ただし、大学入学共通テストの合格判定に用いる科目と個別学力検査等(調査書の得点を除く。)に無得点の科目がある場合は、合計点にかかわらず合格者としません。なお、総合点が同点の場合には、同順位として取り扱いします。 2 次の学科・課程では、個別学力検査等のうちの指定科目の得点が基準点に満たない者は、合計点にかかわらず合格者としません。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>学科・課程等</th> <th>指定科目(基準点:総点の4割)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学校教育課程</td> <td>教育実践コース</td> <td>実技検査(120点), 小論文(120点)</td> </tr> <tr> <td>英語教育コース</td> <td>英語(40点), 小論文(80点)</td> </tr> <tr> <td>理数教育コース</td> <td>面接(100点)</td> </tr> <tr> <td>特別支援教育コース</td> <td>小論文(100点), 面接(120点)</td> </tr> <tr> <td>こども発達コース</td> <td>記述問題(100点), 面接(120点)</td> </tr> <tr> <td>地域文化学科</td> <td>小論文(120点), 面接(60点)</td> </tr> </tbody> </table> 3 学校教育課程教育実践コースでの合格予定者数は、個別学力検査等の選択科目ごとに、おおむね次のとおりとします。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>受験科目</th> <th>合格予定者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小論文</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>実技検査(音楽)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>実技検査(美術)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>実技検査(体育)</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> 	学科・課程等	指定科目(基準点:総点の4割)	学校教育課程	教育実践コース	実技検査(120点), 小論文(120点)	英語教育コース	英語(40点), 小論文(80点)	理数教育コース	面接(100点)	特別支援教育コース	小論文(100点), 面接(120点)	こども発達コース	記述問題(100点), 面接(120点)	地域文化学科	小論文(120点), 面接(60点)	受験科目	合格予定者数	小論文	3人	実技検査(音楽)	2人	実技検査(美術)	1人	実技検査(体育)	2人
学科・課程等	指定科目(基準点:総点の4割)																									
学校教育課程	教育実践コース	実技検査(120点), 小論文(120点)																								
	英語教育コース	英語(40点), 小論文(80点)																								
	理数教育コース	面接(100点)																								
	特別支援教育コース	小論文(100点), 面接(120点)																								
	こども発達コース	記述問題(100点), 面接(120点)																								
地域文化学科	小論文(120点), 面接(60点)																									
受験科目	合格予定者数																									
小論文	3人																									
実技検査(音楽)	2人																									
実技検査(美術)	1人																									
実技検査(体育)	2人																									
医学部	前期日程 後期日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等の総合点に基づき合格者を決めます。 2 面接において面接員が「不可」の判定をした場合は、合格者としません。 3 総合点が同点の場合には、医師としてより適性があると思われる者を上位とします。 																								
	前期日程 後期日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等の総合点に基づき合格者を決めます。 2 面接において面接員が「不可」の判定をした場合は、合格者としません。 3 総合点が同点の場合には、個別学力検査等の成績上位者を優先します。 																								
理工学部	前期日程 後期日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入学共通テストと個別学力検査等(前期日程は調査書の得点を含む。)の総合点に基づいて合格者を決めます。 2 第2志望は、第1志望の学科が募集人員を充足し、かつ第2志望の学科がまだ募集人員を充足していない場合においてのみ、合格者の対象となります。 3 総合点が同点の場合には、同順位として取り扱いします。 4 前期日程においては、前期a, 前期bそれぞれの方式で合格者を決めます。 																								

3 個別学力検査等の日程および試験場

(1) 日程

【前期日程】

学部等		期 日	教科・科目等	時 間	
国際資源学部		令和6年2月25日(日)	英 語	9:00 ~ 10:00	60分
			数 学	10:50 ~ 12:20	90分
			国 語	13:20 ~ 14:20	60分
			理 科	13:20 ~ 14:20	60分
教育文化学部	令和6年2月25日(日)	英 語	9:00 ~ 10:00	60分	
		小論文 (英語教育コースのみ)	10:50 ~ 11:50	60分	
		数 学	10:50 ~ 12:20	90分	
		国 語	13:20 ~ 14:20	60分	
		理 科	13:20 ~ 14:20	60分	
	令和6年2月26日(月)	スピーキング・面接 (英語教育コースのみ)	14:50 ~ 18:00		
		実技検査(音楽)	9:00 ~ 12:00(集合 8:30)		
実技検査(美術)					
		実技検査(体育)	9:00 ~ 16:00(集合 8:30)		
医 学 部	医 学 科	令和6年2月25日(日)	英 語	9:00 ~ 10:00	60分
			数 学	10:50 ~ 12:20	90分
			面接オリエンテーション	12:30 ~ 12:50	20分
	保 健 学 科	令和6年2月25日(日)	英 語	9:00 ~ 10:00	60分
			面 接	10:30 ~ 17:00	
理 工 学 部		令和6年2月25日(日)	数 学	10:50 ~ 12:20	90分
			理 科	13:20 ~ 14:20	60分

注) 面接および実技検査の終了時刻は、受験者数により変わる場合があります。

【後期日程】

学部等		期 日	教科・科目等	時 間	
国際資源学部		令和6年3月12日(火)	小 論 文	10:30 ~ 11:30	60分
			面 接	12:30 ~ 18:00	
教育文化学部		令和6年3月12日(火)	小論文, 記述問題	9:00 ~ 10:00	60分
			面 接	10:30 ~ 17:00	
			スピーキング・面接 (英語教育コース)	10:30 ~ 17:00	
			面 接 (理数教育コース)	9:00 ~ 17:00(集合 8:30)	
			実技検査・面接 (音 楽)	9:00 ~ 16:00(集合 8:30)	
			実技検査・面接 (美 術)		
実技検査・面接 (体 育)	9:00 ~ 18:00(集合 8:30)				
医 学 部	医 学 科	令和6年3月12日(火)	小 論 文	9:00 ~ 11:00	120分
			面 接	11:30 ~ 18:00	
	保 健 学 科	令和6年3月12日(火)	小 論 文	9:00 ~ 10:30	90分
			面 接	11:00 ~ 17:00	
理 工 学 部		令和6年3月12日(火)	数 学	9:00 ~ 9:45	45分
			面 接	10:45 ~ 17:00	

注) 面接および実技検査の終了時刻は、受験者数により変わる場合があります。

(2) 試験場

学部等		日程	※ 試験場
国際資源学部		前期日程	国際資源学部秋田試験場 秋田大学手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号 国際資源学部東京試験場（収容人員30名） タイム24ビル：東京都江東区青海2-4-32 国際資源学部名古屋試験場（収容人員50名） 愛知大学名古屋キャンパス：名古屋市中村区平池町4-60-6
		後期日程	国際資源学部秋田試験場 秋田大学手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号
教育文化学部		前期日程	教育文化学部秋田試験場 秋田大学手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号 教育文化学部東京試験場（収容人員30名） タイム24ビル：東京都江東区青海2-4-32 （個別学力検査等で実技検査を選択した者および英語教育コースの志望者は秋田試験場のみとなります。）
		後期日程	教育文化学部秋田試験場 秋田大学手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号
医学部	医学科	前期日程	医学部秋田試験場 秋田大学本道キャンパス：秋田市本道一丁目1の1
		後期日程	
	保健学科	前期日程	
		後期日程	
理工学部		前期日程	理工学部秋田試験場 秋田大学手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号 理工学部東京試験場（収容人員200名） タイム24ビル：東京都江東区青海2-4-32 理工学部名古屋試験場（収容人員140名） 愛知大学名古屋キャンパス：名古屋市中村区平池町4-60-6
		後期日程	理工学部秋田試験場 秋田大学手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号

※ 試験場の案内（55～57ページ）を参照ください。

(3) 前期日程における試験場（受験地）について

- ① 前期日程の希望受験地は出願時に選択してください。出願後の変更の申し出は受け付けておりません。
- ② 東京および名古屋試験場を希望した志願者は、出願受付完了順（出願システム入力順ではありません。）に割り当てます。上記収容人員に達した場合は、秋田試験場での受験となり東京および名古屋試験場での受験は認められませんので「受験票ダウンロード可能」のメール通知が入り次第、直ちに受験票を印刷したうえで受験票に記載されている試験場を確認してください。

※ 教育文化学部の教育実践コース志願者で実技検査を選択した者、英語教育コースの志願者、医学部の志願者を除く

医学部医学科の募集人員について（申請予定）

医学部医学科では、令和7年度入試から秋田県内の更なる医師確保のため、学校推薦型選抜に『東北地域枠』を新設します。また、「地域の医師確保のための定員増」、「新成長戦略」、「新医師確保総合対策」、「緊急医師確保対策」に基づき開始された暫時的な医学部定員増が令和4年度に終了したことに伴い、令和7年度入試における募集人員は、『一般選抜 前期日程 45人、後期日程 20人、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）20人、学校推薦型選抜Ⅱ（東北地域枠）10人』となります。

現在、『一般選抜 前期日程 45人、後期日程（一般枠）20人、後期日程（秋田県地域枠）5人、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）20人、学校推薦型選抜Ⅱ（東北地域枠）10人、学校推薦型選抜Ⅱ（秋田県地域枠）24人』となるよう**申請予定であります**が、**今後変更となる場合もあります**。

なお、詳細については決定次第、本学ホームページでお知らせしますので、医学部医学科を志願される方は必ず確認してください。

令和6年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	124	55	24 ^{※1}	45 ^{※2}	若干名

※1 24人のうち、一般枠20人、秋田県地域枠4人

※2 45人のうち、一般枠20人、地域枠25人（秋田県地域枠20人程度、全国地域枠5人程度）



令和7年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	95	45	20 ^{※3}	30 ^{※4}	若干名

※3 20人は一般枠20人

※4 30人のうち、一般枠20人、東北地域枠10人



令和7年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	124	45	25 ^{※5}	54 ^{※6}	若干名

※5 25人のうち、一般枠20人、秋田県地域枠5人

※6 54人のうち、一般枠20人、東北地域枠10人、秋田県地域枠24人

なお、※5 および※6 の秋田県地域枠の募集人員は変更されることがありますが、決定次第、本学ホームページでお知らせしますので確認してください。

令和7年度（2025年度）秋田大学医学部医学科入学者選抜方法の変更について

このことについて、令和7年度秋田大学医学部医学科の入学者選抜方法を下記のとおり変更します。

記

【概要】

秋田大学医学部医学科では地域医療を支える医師養成の拠点として、秋田県内の更なる医師充足を目的として一般選抜の「後期日程」で募集していた「秋田県地域枠」と「学校推薦型選抜Ⅱ」の「秋田県地域枠」、「全国地域枠」の制度を変更します。

主な変更内容としては、一般選抜の「前期日程」の募集人員10人を「学校推薦型選抜Ⅱ」に振り分け、「学校推薦型選抜Ⅱ」に新たに「東北地域枠・10人」を設けます。

■秋田県地域枠・全国地域枠の変更について

これまで地域枠は秋田県の修学資金の貸与を受け、卒業後、秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラムに従って貸与期間の1.5倍（9年間）の義務を履行するものでした。

この度の変更内容としては、「全国地域枠・5人程度」を廃止し、その分の募集人員を「後期日程」および「学校推薦型選抜Ⅱ」の「秋田県地域枠」に振り分けそれぞれ「後期日程（秋田県地域枠）・5人」、「学校推薦型選抜Ⅱ（秋田県地域枠）・24人」とします。

■東北地域枠の新設について

秋田県を除く東北各県（青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県）の高等学校等を卒業・卒業見込みの方を対象に10人募集することとします。

【募集人員】

別紙「医学部医学科の募集人員について（申請予定）」のとおり暫定的な医学部定員増は終了したものの、これまで同様の入学定員を維持できるよう申請予定であり、募集人員は今回の変更を踏まえて以下のとおりとなります。

令和6年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	124	55	24 ^{※1}	45 ^{※2}	若干名

※1 24人のうち、一般枠20人、秋田県地域枠4人

※2 45人のうち、一般枠20人、地域枠25人（秋田県地域枠20人程度、全国地域枠5人程度）



令和7年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	II	
医学科	95	45	20 ^{※3}	30 ^{※4}	若干名

※3 20人は一般枠20人

※4 30人のうち、一般枠20人、東北地域枠10人

(申請予定)

令和7年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	II	
医学科	124	45	25 ^{※5}	54 ^{※6}	若干名

※5 25人のうち、一般枠20人、秋田県地域枠5人

※6 54人のうち、一般枠20人、東北地域枠10人、秋田県地域枠24人

なお、※5および※6の秋田県地域枠の募集人員は変更されることがありますが、決定次第本学ホームページでお知らせしますので確認してください。

【東北地域枠について】

新設する「学校推薦型選抜II」の東北地域枠の詳細は以下のとおりです。

■出願資格

次の(1)から(6)の要件すべてに該当する者

- (1) 次にあげる地域の高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和6年3月以降に卒業した者および令和7年3月卒業見込みの者
[青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県]
- (2) 大学卒業後、次にあげる i)～iii) を確約できる者
 - i) 秋田県内の研修指定病院で2年間の臨床研修（初期研修）に従事すること
 - ii) 臨床研修修了後、秋田大学の専門研修プログラムにおいて大学病院を含む秋田県内医療機関での専門研修を行い専門医資格を取得すること
 - iii) 臨床研修修了後、少なくとも5年間、秋田県内の研修指定病院で勤務すること
- (3) 「同意書（東北地域枠）」を提出する者
- (4) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者
- (5) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の学習成績の状況が4.3以上）の者
- (6) 本学他学部および他の国公立大学の学校推薦型選抜に出願していない者

■選抜方法

大学入学共通テストの成績，調査書，推薦書，志願理由書，小論文および面接の結果を総合して判定します。

[大学入学共通テスト]

教科・科目		受験を要する教科・科目名																																
		国語	地理歴史					公民				数学					理科				外国語		情報											
学部・学科	パターン	国語	地理総合、地理探究	歴史総合、日本史探究	歴史総合、世界史探究	地理総合、歴史総合／公共	地理総合／歴史総合／公共	地理総合／歴史総合／公共	公共、倫理	公民総合／歴史総合／公共	現代社会	倫理	倫理・政治・経済	倫理・政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ、数学A	数学Ⅰ、数学A	数学Ⅱ、数学B	数学Ⅱ、数学B	数学Ⅲ、数学C	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	情報Ⅰ
		医学部	医学科	◎	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	△	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
		1	1												1			1								2			1					1

☒部分は「旧教育課程履修者等に対する経過措置」に係る科目です。新教育課程履修者は選択解答できません。
 ◎は必ず受験を要する科目，×は本学では採用しない科目，○および△は選択して受験を要する科目，その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし，△の科目については，選択できる者に制限があります。

[医学部における注意事項]

新旧教育課程履修者共通

ア 大学入学共通テストで1科目を指定しているもののうち，地理歴史・公民の試験時間において2科目受験した場合は，解答順に，前半に受験した科目を第1解答科目，後半に受験した科目を第2解答科目とし，第1解答科目の得点を合格判定に用います。英語にはリスニングテストを含みます。なお，リスニングの受験を免除された者については，リーディング（100点満点）の成績を200点満点に換算して利用します。

新教育課程履修者

地理歴史，公民，数学および情報において，旧教育課程履修者等に対する経過措置科目を選択解答することはできません。

旧教育課程履修者等

数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は，高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。

[個別学力検査等]

学部・学科等		個別学力検査等
医学部	医学科	小論文および面接

医学部医学科の募集人員について (申請予定)

医学部医学科では、令和7年度入試から秋田県内の更なる医師確保のため、学校推薦型選抜に『東北地域枠』を新設します。また、「地域の医師確保のための定員増」、「新成長戦略」、「新医師確保総合対策」、「緊急医師確保対策」に基づき開始された暫時的な医学部定員増が令和4年度に終了したことに伴い、令和7年度入試における募集人員は、『一般選抜 前期日程 45人、後期日程 20人、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）20人、学校推薦型選抜Ⅱ（東北地域枠）10人』となります。

現在、『一般選抜 前期日程 45人、後期日程（一般枠）20人、後期日程（秋田県地域枠）5人、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）20人、学校推薦型選抜Ⅱ（東北地域枠）10人、学校推薦型選抜Ⅱ（秋田県地域枠）24人』となるよう申請予定ではありますが、今後変更となる場合もあります。

なお、詳細については決定次第、本学ホームページでお知らせしますので、医学部医学科を志願される方は必ず確認してください。

令和6年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	124	55	24 ^{※1}	45 ^{※2}	若干名

※1 24人のうち、一般枠20人、秋田県地域枠4人

※2 45人のうち、一般枠20人、地域枠25人（秋田県地域枠20人程度、全国地域枠5人程度）



令和7年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	95	45	20 ^{※3}	30 ^{※4}	若干名

※3 20人は一般枠20人

※4 30人のうち、一般枠20人、東北地域枠10人

(申請予定)

令和7年度入試	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	私費外国人 留学生入試
		前期日程	後期日程	Ⅱ	
医学科	124	45	25 ^{※5}	54 ^{※6}	若干名

※5 25人のうち、一般枠20人、秋田県地域枠5人

※6 54人のうち、一般枠20人、東北地域枠10人、秋田県地域枠24人

なお、※5 および※6 の秋田県地域枠の募集人員は変更されることがありますが、決定次第、本学ホームページでお知らせしますので確認してください。

科目コード	50941301	単位数	1	時間数	15	標準履修年次	1
授業科目名	初年次ゼミⅠ「医学」 Seminar for first-year medical students						
授業科目名英字	Seminar for first-year medical students						
開講期	第1Q	授業形式	講義・演習				
時間割	第1Q 火曜日 5・6時限/第1Q 火曜日 7・8時限/第1Q 火曜日 9・10時限/						
履修する際に前提とする授業科目	無し						
担当教員名	【所属】		【教員番号】	【電話番号】			
長谷川 仁志	医学部 医学教育講座		44010040104	018-884-6097			
オンラインアプロー	【曜日・時間】 8：30～18：00 随時 要アプローント (TEL：018-884-6097) 【場所】 基礎医学研究棟 1階 医学教育講座						
授業の目的・概要	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 6年間の医学教育の全体像を理解した上で、アクティブラーニングによる自己決定型学習を身につける。 腫瘍・臨床推論と医療面接コミュニケーションスキルについてのレクチャーやロールプレイ演習過程を通じて、6年間通じて修得すべき1)プロフェッショナルズ、2)医の倫理、3)医療行動科学、4)医療安全、5)Evidence-based Medicine (EBM)、6)医療法(制度)、7)主要37症種の臨床推論・医療面接コミュニケーションスキルの学習を開始し、今後、4年次にスクリーントップターとなり、卒後に理論的なトピクスとなるための各分野の学習へつなげる。 基礎医学、社会医学、臨床医学教育を統合して学ぶ重要性を認識して今後の学習を進展させる。 						
到達目標	<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 6年間の医学教育の全体像を理解し説明できる。自己決定型学習を把握できる。 1)プロフェッショナルズ、2)医の倫理、3)医療行動科学、4)医療安全、5)Evidence-based Medicine (EBM)、6)医療法(制度)、7)主要37症種の臨床推論・医療面接コミュニケーションスキルを中心に理論的臨床能力の学習を開始し、今後の各分野の学習へつなげることができる。 基礎医学、社会医学、臨床医学教育を統合して学ぶ重要性を理解して実践できる。 						
カリキュラム上の位置付け	<p>教養基礎教育であり、入学後の早い時期に医学生としての学修目標を理解し、自主的に判断し学修できる資質を身につけるための導入教育としての位置づけがある。</p>						
成績評価の方法と基準	<p>OSCE 6段階評価の3以上、各観的試験6割以上が合格基準。 ただしその他にも課題レポート、授業参加状況等、知識、技術、態度を総合的に判断して評価する。</p>						

授業の進行予定と進め方		授業時間外の学習内容等	
スケジュールは別紙にて配布します。		事前課題などの資料について、a.netを通じて連絡します。授業前、授業後に必ず確認してください。講義内容の復習、参考資料を活用した勉強など自学学習を行ってください。	
授業に開講するキーワード	医学入門 臨床推論 TBL/PBL	医学教育入門 医療面接スキル	症候学 プレゼンテーション能力
【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】
教科書	病態理解でこまごまわかる 臨床推論中級が 胸版	山本文雄、伊藤安他	メゾイカルピニエー社
教科書	そのまじめる病態臨床推論	仁木久恵、森島祐子他	医学書院
教科書	日常診療に役立つ行動医学・臨床医学アプローチ	吉内 一浩	医療薬田販売株式会社
教科書	医、患者	山口育子	岩波書店
参考書	内科診断学	福井収次	医学書院
参考書	予習・復習を行ってください、病気などのやむを得ない理由で欠席した場合は、欠席届を提出の上、必ず欠席した授業の課題に取り組み、都合により、授業計画が変更になる場合があります。メール、a.net、email、webclassを頻りに確認してください。		
メッセージ			

令和6年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：医療・社会・行動科学I

授業科目名：医療行動科学（Medical behavioral science）－医師・医療者、患者・家族の行動科学と適切な対応を学んでこれからの理想的な医療を担う－

対象学年：1年次必修

時間割コード：71583001

開設学期等：第1週～第13週（毎週火曜日3-10時限）

単位数：3

1. 主任教員

長谷川仁志（教授、医学教育学講座、6097）

2. 担当教員

長谷川仁志（教授、医学教育学講座、6097）

齋藤 雅世（助教、保健学専攻 看護学講座 小児看護学分野）

今野 玲子（、附属病院 実習等調整担当看護師長）

芦田 ルリ（非常勤講師、東京慈恵会医科大学 医学部 教授）

中澤 操（非常勤講師、秋田県立リハビリテーション 副病院長）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい

すべての医師は、身体的な病態を科学的に捉えると同時に、プロとしてその心や行動についても十分に理解し、思いやりの気持ちをもって対応するスキルを修得することで、患者・家族や医療者と良好なコミュニケーションを実現し、病気の予後改善や理想的な医療につながる体制を構築していく必要があります。そのためには、医学生として1年次早期から医師・医療者、患者・家族に関する医療行動科学を学修することを開始し、6年間でそれを実践できるような意識を持つことが重要です。

本講義では、多くの事例ベースからなる腹痛患者さんへの医療面接・臨床推論の講義と演習、看護演習・看護実習、早期臨床実習から、医師-患者・家族（さらには医師-医療従事者）間の関係を良好にして、同職種、多職種、さらには患者・家族も含んだ広義のチーム医療の質を向上し充実するための医療行動科学について、様々な観点からの基本事項を実践的に学び、これからの6年間の学修につなげます。ここでは、チームビルディングにおける医師の役割やコミュニケーションスキル（ノンテクニカルスキル）としての医療行動科学と、基礎医学、社会医学、臨床医学の統合学修の重要性も理解することになります。

また、並行して、卒後臨床研修でも向上しつつ生涯重要となる肺の聴診、心エコー・腹部エコー学修・演習を行うことによっても基礎医学と臨床医学の（学年を超えた）垂直統合学修の重要性を学びます。

これら医療行動科学科目期間の学修内容は、1年次前期の初年次ゼミから引き続き6年間シームレスに学ぶべきプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての実践的な理解も目標としています。

学修目標

1. 医療面接における腹痛の臨床推論、医療面接コミュニケーションスキル（日本語、英語）の基本を実践的に修得するとともに、基礎医学、社会医学、臨床医学、医療行動科学各分野と水平・垂直統合しながら自ら積極的に学んでいく意義を理解する。

（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-6、4-1～4-2、4-4～4-5、5-3～5-5、6-1～6-2）

2. 看護演習、看護実習により、チーム医療、多職種連携の重要性および患者さんの心身のケア、医療安全・患者安全についての理解を深める。

（1-1～1-2、2-1～2-7、3-5～3-7、4-7～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2）

3. 大学・県内の病院など地域医療・医療連携の一线現場における医師の診療活動、患者・医師関係、チーム医療について現場で見学実習することにより、医師の使命・チーム医療のリーダーとしてあるべき姿・プロフェッショナリズムを実感するとともに、患者さん・ご家族や医療者の皆さんとのコミュニケーション、医の倫理、医療安全、様々な患者さんの背景に沿った総合的な診療の重要性を理解する。

(1-1～1-2、2-1～2-8、3-5～3-7、4-7～4-8)

4. 卒後臨床研修で重要な心エコー・腹部エコーの基本画像を実践的に描出することにより、臨床における心臓と腹部臓器の重要ポイントを理解し、2年生の解剖学をはじめとする基礎医学学修やその後の臨床医学学修に結びつける。

(3-1～3-3)

5. 上記1から4の過程で、【1年次医療行動科学】として以下の事項等の全体概要を学び、今後の各分野6年間の継続的な学修へと結びつける。(1-1～1-2、2-1～2-8、3-7)

【1年次医療行動科学】

1) 医師と患者：行動変容、各種バイアス (1) 医療面接の行動科学：コミュニケーションスキル (2) 共感 (パートナーシップ、敬意) (3) 悪い知らせを知らせる (4) 困難な患者・難しい状況 (5) マインドフルな診療、様々な背景を考慮した総合的な診療 (6) EBM とインフォームドコンセント、ICT の活用

2) 特定の集団への対応 (1) 家族・子育て・医学的な問題や症状に関して家族が感じている困難さをスクリーニングする・危険信号を出している問題・医師―患者―家族の問題をスクリーニングする (2) 小児・過剰なストレス・医師―子供―親の三角関係・いじめ (3) 高齢者・高齢者とのコミュニケーションにおける配慮 (4) 異文化コミュニケーション (5) チーム医療・医師のチーム、診療科を超えたチーム医療・多職種連携チーム医療

3) 健康関連行動 (1) 患者のアドヒアランスノンアドヒアランスの原因 (医療者側の原因、患者側の原因) (2) ストレスと疾患・消化器疾患、心血管疾患

4. 教科書・参考書

○教科書

1. 臨床推論集中講義 胸痛 (メディカルビュー社)
2. 日常診療に役立つ行動医学・心身アプローチ (医歯薬出版)
3. そのまま使える病院英語表現 5000 (医学書院)
4. 賢い患者 (岩波新書)
5. 医師・医学生のための人類学・社会学 臨床症例／事例で学ぶ (ナカニシヤ出版)

○以下は、推奨図書

6. 内科診断学 (医学書院)
7. 内科学 (朝倉書店)
8. 人体の正常構造と機能 (日本医事新報社)

5. 成績評価の方法

1. パフォーマンス評価

腹痛医療面接 OSCE (客観的臨床実技試験) 日本語・英語

心エコー・腹部エコー・肺の聴診 OSCE (客観的臨床実技試験)

早期臨床実習ポートフォリオ、腹痛鑑別診断のスライド・発表原稿等の提出課題内容

2. 態度評価

出席状況、学修・実習・演習態度、アンプロフェッショナルな態度の有無

提出課題内容

3. 知識の評価

統一試験

上記の1, 2が不良の場合には、本科目の講義と実習の履修終了とみなされないため、3 統一試験の受験資格が認められなくなります。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

1 学期初年次ゼミの医療面接コミュニケーションスキル、医療安全、医療行動学について復習してくること。

1 学期のうちに、実習のドレスコードにあるケーシの白衣を準備すること（クラスで共同購入等）。初めの週から、看護演習・看護実習と病院での実習があります。臨床現場における頭髪、身なりは十分に配慮してください。

※本科目は「秋田大学COCキャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	9月24日 (火)	3-10 時限	演習	テーマ：オリエンテーション、看護演習・実習説明 オリエンテーション 後期授業説明 看護演習・実習説明 医療行動科学の概要	長谷川仁志 今野 玲子	基礎講義棟 1階第1講 義室、5 B 実習室
2	9月25日 (水)	1-10 時限	実習	テーマ：看護演習 医療安全・患者安全に配慮した看護の基本技術について実践的に学び、演習します。	長谷川仁志 齋藤 雅世	保健学科
3	9月26日 (木)	1-10 時限	実習	テーマ：A クラス 看護実習 A クラス：看護実習 附属病院各病棟で、担当看護師さんとともに医療安全・患者安全に配慮した看護実習を1日行います。 B:後期授業と学び方ガイド（その後、各グループ代表の心エコー・腹部エコー演習）	長谷川仁志 今野 玲子	A クラス： 附属病院、 B クラス： 基礎講義棟 1階第1講 義室および シミュレー ション教育 センター
4	9月27日 (金)	1-10 時限	実習	テーマ：B クラス 看護実習 B クラス：看護実習 附属病院各病棟で、担当看護師さんとともに医療安全・患者安全に配慮した看護実習を1日行います。 A:後期授業と学び方ガイド（その後、各グループ代表の心エコー・腹部エコー演習）	長谷川仁志 今野 玲子	B クラス： 附属病院、 A クラス： 基礎講義棟 1階第1講 義室および シミュレー ション教育 センター
5	10月1日 (火)	3-10 時限	実習	テーマ：医療行動科学 A クラス：早期臨床実習1日目（大学病院各科・県内医療機関での実習） B クラス：1）医療行動科学 事例ベースの腹痛臨床推論・医療面接スキルの学修・演習過程で医療行動科学の基本を学修します。同時にプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての学びをはじめます。 2）臨床ポイントと基礎医学の統合心エコー・腹部エコー・肺の聴診エコー演習	長谷川仁志	A クラス： 附属病院各 診療科、県 内医療機 関、B クラ ス：基礎講 義棟1階第 1講義室お よびシミュ レーション 教育セ ンター
6	10月8日 (火)	3-10 時限	実習	テーマ：医療行動科学 B クラス：早期臨床実習1日目（大学病院各科・県内医療機関での実習） A クラス：1）医療行動科学 事例ベースの腹痛臨床推論・医療面接スキルの学修・演習過程で医療行動科学の基本を学修します。同時にプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての学びをはじめます。 2）臨床ポイントと基礎医学の統合心エコー・腹部エコー・肺の聴診エコー演習	長谷川仁志	B クラス： 附属病院各 診療科、県 内医療機 関、A クラ ス：基礎講 義棟1階第 1講義室お よびシミュ レーション 教育セ ンター

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
7	10月15日(火)	3-10時限	実習	<p>テーマ：医療行動科学</p> <p>Aクラス：早期臨床実習2日目（大学病院各科・県内医療機関での実習）</p> <p>Bクラス：1）医療行動科学 事例ベースの腹痛臨床推論・医療面接スキルの学修・演習過程で医療行動科学の基本を学修します。同時にプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての学びをはじめます。 2）臨床ポイントと基礎医学の統合心エコー・腹部エコー・肺の聴診エコー演習</p>	長谷川仁志	Aクラス：附属病院各診療科、県内医療機関、Bクラス：基礎講義棟1階第1講義室およびシミュレーション教育センター
8	10月22日(火)	3-10時限	実習	<p>テーマ：医療行動科学</p> <p>Bクラス：早期臨床実習2日目（大学病院各科・県内医療機関での実習）</p> <p>Aクラス：1）医療行動科学 事例ベースの腹痛臨床推論・医療面接スキルの学修・演習過程で医療行動科学の基本を学修します。同時にプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての学びをはじめます。 2）臨床ポイントと基礎医学の統合心エコー・腹部エコー・肺の聴診エコー演習</p>	長谷川仁志	Bクラス：附属病院各診療科、県内医療機関、Aクラス：基礎講義棟1階第1講義室およびシミュレーション教育センター
9	10月29日(火)	3-10時限	実習	<p>テーマ：医療行動科学</p> <p>Aクラス：早期臨床実習3日目（大学病院各科・県内医療機関での実習）</p> <p>Bクラス：1）医療行動科学 事例ベースの腹痛臨床推論・医療面接スキルの学修・演習過程で医療行動科学の基本を学修します。同時にプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての学びをはじめます。 2）臨床ポイントと基礎医学の統合心エコー・腹部エコー・肺の聴診エコー演習 3）特別講義</p>	長谷川仁志 中澤 操	Aクラス：附属病院各診療科、県内医療機関、Bクラス：基礎講義棟1階第1講義室およびシミュレーション教育センター
10	11月5日(火)	3-10時限	実習	<p>テーマ：医療行動科学</p> <p>Bクラス：早期臨床実習3日目（大学病院各科・県内医療機関での実習）</p> <p>Aクラス：1）医療行動科学 事例ベースの腹痛臨床推論・医療面接スキルの学修・演習過程で医療行動科学の基本を学修します。同時にプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての学びをはじめます。 2）臨床ポイントと基礎医学の統合心エコー・腹部エコー・肺の聴診エコー演習 3）特別講義</p>	長谷川仁志	Bクラス：附属病院各診療科、県内医療機関、Aクラス：基礎講義棟1階第1講義室およびシミュレーション教育センター
11	11月12日(火)	3-10時限	全体討議	<p>テーマ：臨床実習経験発表会</p> <p>チーム医療実習総括学習、特別講義（英語医療面接）</p>	長谷川仁志 芦田 ルリ	基礎講義棟1階第1講義室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
12	11月19日 (火)	3-10 時限	試験	テーマ：臨床実習経験発表会、OSCE 演習 午前：肺聴診 OSCE 午後：チーム医療実習総括学習、OSCE 演習	長谷川仁志	基礎講義棟 1階第1講義室および 学生実習棟 2階チュートリアル室、シミュレーション教育センター
13	12月3日 (火)	3-10 時限	試験	テーマ：腹痛 医療面接 OSCE 日本語 および 心エコー OSCE 客観的臨床能力試験：OSCE 医療面接（日本語）および心エコー OSCE	長谷川仁志	基礎講義棟 1階第1講義室および 学生実習棟 2階チュートリアル室
14	12月10日 (火)	3-10 時限	試験	テーマ：腹痛 医療面接 OSCE 英語 および 腹部エコー OSCE 客観的臨床能力試験：OSCE 医療面接（英語）および腹部エコー	長谷川仁志	基礎講義棟 1階第1講義室および 学生実習棟 2階チュートリアル室
15	12月17日 (火)	3-10 時限	試験	テーマ：医療行動科学 2学期のまとめ、OSCE 追試験 医療行動科学 2学期のまとめ その後 OSCE 追試験	長谷川仁志	基礎講義棟 1階第1講義室および シミュレーション教育センター

令和6年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：医療・社会・行動科学Ⅱ

授業科目名：地域医療・コミュニケーションとチーム医療（Community Medicine）

対象学年：2年次必修

時間割コード：71583004

開設学期等：第33週～第33週

単位数：1

1. 主任教員

長谷川仁志（教授、医学教育学講座、6097）

2. 担当教員

長谷川仁志（教授、医学教育学講座、6097）

岡崎三枝子（講師、総合臨床教育研修センター）

南園佐知子（非常勤講師、NTT東日本健康管理センター）

伊藤伸一（非常勤講師、伊藤医院 院長、秋田県医師会副会長）

市原利晃（非常勤講師、秋田往診クリニック理事長）

蓮沼直子（非常勤講師、広島大学医学部附属医学教育センター教授）

赤嶺陽子（非常勤講師、大阪市立総合医療センター小児集中治療部）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

これからの高齢社会では、患者さんにとって心身ともに切れ目なく安心して医療を受けられるような地域医療連携が必須である。本プログラムでは、地域医療の意義と魅力および現状と課題を学ぶ。その際にどのような分野の医師にとっても、大切な地域医療連携・プライマリケアを実践できる基本的診療能力と、地域包括ケア・地域医療連携の様々な課題を解決していく全人的医療実践能力、各種チーム医療を向上するためのチームビルディングのためのノンテクニカルスキルの重要性や医療行動科学について事例ベースで検討し理解する。さらに、医療充実に重要な医師のキャリア形成について考える。

アクティブラーニングの過程で、プロフェッショナリズム、コミュニケーション力、問題解決力、医療行動科学、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度についての実践的能力を高める。

学修目標

1. 地域社会（へき地・離島を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。（4-7～4-8、3-7）
2. 医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。（3-7、4-7～4-8）
3. 地域包括ケアシステム概念を理解し、多職種連携の重要性を説明できる。（2-6、3-7、4-7～4-8）
4. かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-7～4-8）
5. 医師会の役割を説明できる。（1-1～1-2、3-4～3-7、4-7～4-8、6-1～6-2）
6. 死生観と診療について説明できる。（1-1～1-2、2-1～2-8、4-1～4-8）
7. ACP(Advanced Care Planning) について説明できる。（1-1～1-2、2-1～2-8、4-1～4-8）
8. 主要41症候に対するプライマリケア診療実践力修得のために、医療面接に加えて心電図、聴診による臨床推論を説明できる。（3-1～3-6、4-1～4-6、6-1～6-2、5-1～5-5）
9. これからの医師のキャリア・男女共同参画について説明できる。（3-7、2-2、4-7～4-8、5-5）
10. 本領域と関連したプロフェッショナリズム、コミュニケーション力、問題解決力、医療行動科学、医の倫理、医療安全、EBM、医療制度について理解し、今後の学修と結びつけることができる。（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2）

4. 教科書・参考書

参考書

- ・地域医療学入門 （日本医学教育学会地域医療教育委員会）

5. 成績評価の方法

出席状況・態度、グループ学習状況、発表状況・態度、レポート提出、
統一試験

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※本科目は「秋田大学COCキャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	1月6日 (月)	1-10 時限	グループ 学習	テーマ：医師のキャリア形成・男女共同参画 1 いくつかのロールモデルを参考に、これからの医師の キャリア形成・男女共同参画について、各種制度活用 も含めて事例ベースの PBL 形式で学ぶ。	岡崎三枝子 蓮沼直子	基礎講義棟 2階 第2 講義室、 チュートリ アル室
2	1月7日 (火)	1-6 時限	グループ 学習	テーマ：医師のキャリア形成・男女共同参画 2 キャリア形成におけるジェンダーバイアスについて、 社会学の分野で研究・証明されている事象について解 説し、学生時代から認識することを目的とする。事例 ベースに PBL 形式で検討する。	岡崎三枝子 赤嶺陽子	基礎講義棟 2階 第2 講義室、 チュートリ アル室
3	1月7日 (火)	7-10 時限	講義	テーマ：医師のキャリア形成・男女共同参画 3 キャリア形成におけるジェンダーバイアスについて、 社会学の分野で研究・証明されている事象について解 説し、学生時代から認識することを目的とする。事例 ベースに PBL 形式で検討する。	岡崎三枝子	基礎講義棟 2階 第2 講義室
4	1月8日 (水)	1-2 時限	講義	テーマ：地域医療学・行動医療科学・地域医療とコミュ ニケーション 地域社会における医療の状況、医師の偏在や、医療計 画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連 携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地 域医療構想等について学ぶ。	南園佐知子	基礎講義棟 2階 第2 講義室
5	1月8日 (水)	3-4 時限	講義	テーマ：地域医療学・行動医療科学・地域医療とコミュ ニケーション 在宅医療の実際と多職種連携に関する講義で、医療や 介護に携わる多職種が話し合う医療と介護関係者の 顔の見える関係の構築により、療養者及びその家族の QOL の向上につながると取り組みについて学ぶ。	伊藤伸一	基礎講義棟 2階 第2 講義室
6	1月8日 (水)	5-10 時限	グループ 学習	テーマ：プライマリケアの意義、臨床推論の手法を修 得する【臨床推論2】 何科の医師にとっても重要なプライマリケア心電図等 の判読と臨床推論ポイントについて学ぶ。	長谷川仁志	基礎講義棟 2階 第2 講義室
7	1月9日 (木)	1-4 時限	講義	テーマ：プライマリケアの意義、臨床推論の手法を修 得する【臨床推論2】 何科の医師にとっても重要なプライマリケア心電図等 の判読と臨床推論ポイントについて学ぶ。	長谷川仁志	基礎講義棟 2階 第2 講義室
8	1月9日 (木)	5-10 時限	グループ 学習	テーマ：地域医療学・行動医療科学・地域医療とコミュ ニケーション 在宅医療の際に生じる様々な課題と解決策について、 症例ベースに PBL 形式でグループごとに検討・発表 後、実際の在宅診療の医師、薬剤師、看護師、ケアマ ネージャーからの直接の意見をもらって実践的に学ぶ。	市原利晃	基礎講義棟 2階 第2 講義室
9	1月10日 (金)	1-10 時限	講義	テーマ：プライマリケアの意義、臨床推論の手法を修 得する【臨床推論2】 何科の医師にとっても重要なプライマリケア聴診等の 身体診察と臨床推論ポイントについて学ぶ。	長谷川仁志	基礎講義棟 2階 第2 講義室

令和6年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：臨床医学Ⅲ

授業科目名：総合診療・臨床検査（Clinical Laboratory Medicine and Medical Diagnosis）－病態診断学と総合診療－

対象学年：4年次必修

時間割コード：71633030

開設学期等：第1週～第9週（毎週金曜日1-4時限）

単位数：1

1. 主任教員

植木重治（教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

2. 担当教員

植木重治（教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

嵯峨知生（病院教授、附属病院感染制御部、6248、オフィスアワー：8：30～17：00）

守時由起（准教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

嵯峨亜希子（助教、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

藤岡優樹（助教、附属病院中央検査部、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

北村俊晴（特任助教、総合診療医センター、6428、オフィスアワー：8：30～17：00）

平澤暢史（特任助教、総合診療医センター、6428、オフィスアワー：8：30～17：00）

亀山孔明（特任助教、総合診療医センター、6428、オフィスアワー：8：30～17：00）

佐々木智子（特任助教、総合診療医センター、6428）

高橋琴乃（医員、男鹿なまはげ地域医療・総合診療連携講座、6428、オフィスアワー：8：30～17：00）

岡田唯男（非常勤講師、亀田ファミリークリニック館山）

萱場広之（非常勤講師、秋田赤十字病院）

伊藤 亘（非常勤講師、流山東部診療所）

玉木真実（非常勤講師、玉木内科クリニック）

面川 歩（非常勤講師、協和病院）

本郷舞依（非常勤講師、坂総合病院）

特別講師（非常勤講師）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

総合内科的な症状に対する診断アプローチと基本的な臨床検査データを解釈することができる。（3-2～3-4, 4-1～4-4）

1）発熱、体重減少、浮腫、発疹、頭痛、めまい、意識障害などの主要症候の鑑別診断ができる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

2）検査の基準値・カットオフ値、感度・特異度、偽陽性・偽陰性など検査の特性を説明できる。（3-3, 4-2～4-4）

3）検査の正常・異常が何を意味するのか説明できる。（3-2～3-3, 4-1～4-2）

4）末梢血液検査の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

5）血液生化学検査の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

6）炎症マーカー（血清・免疫学的検査）の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

7）腫瘍マーカー（血清・免疫学的検査）の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

8）特殊抗体（血清・免疫学的検査）の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

9）血液凝固系検査の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

10）一般検査（尿・便・髄液検査）の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

11）微生物学的検査の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-4, 4-1～4-4）

12）肺機能検査の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

13）動脈血液ガス分析検査の目的・適応および所見を説明し、結果を解釈できる。（3-2～3-3, 4-1～4-4）

4. 教科書・参考書

新臨床内科学、ハリソン内科学書、新・総合診療医学家庭医療学編、新・総合診療医学病院総合診療医学編、異常値の出るメカニズム、病気の成り立ちと臨床検査、標準臨床検査医学、臨床検査法提要

5. 成績評価の方法

統一試験、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

関連分野の復習を行っておくとよい。検査の解釈は実習を含むので主体的に参加してください。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	4月12日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：臨床検査医学総論・統計学 臨床検査医学の概要と診断学に必要な統計学の基礎を説明できる。	植木重治	第二病棟 2F・多目的室
2	4月12日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：血液・凝固・線溶系検査と臨床 末梢血液・凝固・線溶系検査検査によって得られる情報を理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	藤岡優樹	第二病棟 2F・多目的室
3	4月19日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：一般検査と臨床 一般検査によって得られる情報を理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	植木重治	第二病棟 2F・多目的室
4	4月19日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：生化学と炎症の評価 生化学検査によって得られる情報を理解し、解釈できる。	植木重治	第二病棟 2F・多目的室
5	4月26日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：生理機能検査と遺伝子検査のエッセンス 検査を中心とした臨床的な意義を説明できる。	藤岡優樹	第二病棟 2F・多目的室
6	4月26日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：診断学入門 検査結果から得られる情報を理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	高橋琴乃	第二病棟 2F・多目的室
7	5月10日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：免疫・腫瘍マーカーのエッセンス 腫瘍マーカー検査によって得られる情報を理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	守時由起	第二病棟 2F・多目的室
8	5月10日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：臨床検査医学の魅力 臨床検査値の変化を統合して理解し、解釈できる。	萱場広之	第二病棟 2F・多目的室
9	5月17日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：検体採取の実際とその解釈総論 検体採取の実際・検査値解釈におけるピットフォールを説明できる。	植木重治	第二病棟 2F・多目的室
10	5月17日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：統計利用と尤度比 統計利用と尤度比を理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	面川歩	第二病棟 2F・多目的室
11	5月24日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：家庭医療の実際 総合診療の実際を理解し説明できる。	北村俊晴	第二病棟 2F・多目的室
12	5月24日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：RCPC で学ぶ検査診断学・オーバービュー 臨床検査データのみから症状や診察所見を推定し、データを総合的に解釈することができる。	植木重治	第二病棟 2F・多目的室
13	5月31日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：渡航医学とワクチン活用 渡航医学とワクチンを理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	嵯峨知生	第二病棟 2F・多目的室
14	5月31日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：特殊抗体検査・蛋白分画 自己抗体検査・蛋白分画検査によって得られる情報を理解・解釈し、臨床的な意義を説明できる。	面川歩	第二病棟 2F・多目的室
15	6月7日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：症例から学ぶ検査と診断 臨床検査値の変化を統合して理解し、解釈できる。	嵯峨亜希子	第二病棟 2F・多目的室
16	6月7日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：特別講義・総合診療概論 総合診療の実態を理解し、説明できる。	岡田唯男	第二病棟 2 F・多目的室

令和6年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：地域医療実習（Community medicine training）

対象学年：5年次必修

時間割コード：71644006-28

1. 主任教員

学務委員長（）

2. 担当教員

学務委員長（）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい

これからの社会では、どのような分野や医療機関の医師にとっても、医療連携を必要とするすべての患者さんや家族が、心身ともに安心して医療を継続的に受けられるように、診療を行う各地区における地域包括ケア・医療連携を考慮した全人的医療が必須となる。

本プログラムは、学内における1年間の診療参加型臨床実習（CC1）が終了した後に、1～2名単位で4～5週間にわたり、県内2次医療圏の各地域医療機関における診療参加型臨床実習を行う。これによりCC1の経験を生かして、基本的な診療能力を向上するとともに、地域包括ケアシステムと多職種連携の重要性、地域医療の魅力とやりがいを理解し、将来、医師として様々な形で地域医療連携に関わっていくための総合的な診療実践力を修得する。さらには、これらの実習経験を通じて、医師のプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療制度についての実践力を向上する。

学修目標（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2）

1. 地域医療・プライマリケアにおける主要症候・病態に対して十分な医療面接、身体診察による臨床推論、初期対応ができる。
2. 系統だった臨床検査、画像検査が適切に提案できる。
3. 正確で系統だった症例提示とカルテ記載ができる。
4. 一般的な急性・慢性疾患や病態に対して治療方針の提案など適切に対応できる。
5. EBMの意義を正確に理解して問題解決のために実践できる。
6. 患者・家族とラポールを形成するような人間関係が構築できる。
7. 在宅医療・地域包括ケアにおける広義のチーム医療・多職種連携の重要性を理解し実践できる。
8. 死生観やACP（Advance Care Planning）について理解し、地域包括ケアの際に検討できる。
9. 予防医学に関する知識があり実践できる。
10. 介護保険等の一般的な書類を記載し、指導医に提案できる。
11. 地域医療の魅力とやりがいを理解し実践できる。
12. ICTを活用した的確な情報収集ができる
13. 地域医療実習経験を通じて、医師のプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力、様々な患者背景を考慮した総合的な診療能力を幅広く向上する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

実習手引き※後日配付

各病院における推薦図書など

5. 成績評価の方法

各受入病院の臨床教授等による評価, 提出実習レポート評価, 実習出席状況及び実習態度を評価する。CC-EPOC の入力状況も評価対象となる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※本科目は「秋田大学 COC キャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である

令和6年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：臨床医学 VI

授業科目名：秋田県研修病院実習（clinical clerkship in training hospitals in Akita Prefecture）－卒後臨床研修病院における診療参加型臨床実習で幅広い経験を積み、総合的な診療能力を向上する－

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-30

1. 主任教員

学務委員長（）

2. 担当教員

学務委員長（）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい

学内における1年間の診療参加型臨床実習（CC1）の終了後、5年次後期からのCC2開始時に、医学教育の集大成として第一線の臨床現場である秋田県内の卒後臨床研修に関わる医療機関で臨床実習する。この実習により、地域医療連携を含めた医師としての幅広い経験を積み、将来、どの分野に進んでも大切な総合的な診療能力を向上させるとともに、卒後臨床研修に向けての学修意識を高める。さらに、実習経験を通じて、プロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力を幅広く向上する。

学修目標

秋田県内の卒後臨床研修病院を中心とした実習協力病院で3週間の地域実習を5年生全員が同時に行う。CC1の経験を生かし、上級医の指導の下で研修医とともに主治医チームの一員として診療に参加するなど、学生実習で認められる範囲で積極的に入院あるいは外来診療・地域医療連携（地域包括ケア）を経験し、総合的な診療能力および患者や各医療従事者とのコミュニケーション力を向上させる。さらに、この時期に、各医療機関における卒後臨床研修を意識した実習を経験することにより、その後、CC2期間の診療参加型臨床実習に取り組むモチベーションを上げる。（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2）

1. 主要症候や病態に対して十分な医療面接、身体診察による臨床推論および初期対応ができる。
2. 系統だった臨床検査、画像検査が適切に提案できる。
3. 正確で系統だった症例提示とカルテ記載ができる。
4. 一般的な急性・慢性疾患や病態に対して治療方針の提案など適切に対応できる。
5. EBMの意義を正確に理解して問題解決のために実践できる。
6. 患者さんとラポールを形成するような人間関係が構築できる。
7. 広義のチーム医療、多職種連携の重要性を理解し実践できる。
8. 地域医療連携、地域包括ケア、予防医学に関する知識があり実践できる。
9. 各種医療制度を理解し、介護保険等、一般的な書類記載内容について指導医に提案できる。
10. 卒後臨床研修を意識して診療参加型臨床実習を充実することができる。
11. ICTを活用した的確な情報収集ができる
12. これらの実習経験を通じて、医師のプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力、様々な患者背景を考慮した総合的な診療能力を幅広く向上する。

4. 教科書・参考書

手引き※後日配付予定

各病院における推薦図書

5. 成績評価の方法

各受入病院の臨床教授等による評価、提出実習レポート評価、実習出席状況及び実習態度を評価する。CC-EPOCの入力状況も評価対象となる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※本科目は「秋田大学 COC キャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である。

令和6年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：地域医療実習（Community medicine training）

対象学年：6年次必修

時間割コード：71644006-28

1. 主任教員

学務委員長（）

2. 担当教員

学務委員長（）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい

これからの社会では、どのような分野や医療機関の医師にとっても、医療連携を必要とするすべての患者さんや家族が、心身ともに安心して医療を継続的に受けられるように、診療を行う各地区における地域包括ケア・医療連携を考慮した全人的医療が必須となる。

本プログラムは、学内における1年間の診療参加型臨床実習（CC1）が終了した後に、1～2名単位で4～5週間にわたり、県内2次医療圏の各地域医療機関における診療参加型臨床実習を行う。これによりCC1の経験を生かして、基本的な診療能力を向上するとともに、地域包括ケアシステムと多職種連携の重要性、地域医療の魅力とやりがいを理解し、将来、医師として様々な形で地域医療連携に関わっていくための総合的な診療実践力を修得する。さらには、これらの実習経験を通じて、医師のプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療制度についての実践力を向上する。

学修目標（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2）

1. 地域医療・プライマリケアにおける主要症候・病態に対して十分な医療面接、身体診察による臨床推論、初期対応ができる。
2. 系統だった臨床検査、画像検査が適切に提案できる。
3. 正確で系統だった症例提示とカルテ記載ができる。
4. 一般的な急性・慢性疾患や病態に対して治療方針の提案など適切に対応できる。
5. EBMの意義を正確に理解して問題解決のために実践できる。
6. 患者・家族とラポールを形成するような人間関係が構築できる。
7. 在宅医療・地域包括ケアにおける広義のチーム医療・多職種連携の重要性を理解し実践できる。
8. 死生観やACP（Advance Care Planning）について理解し、地域包括ケアの際に検討できる。
9. 予防医学に関する知識があり実践できる。
10. 介護保険等の一般的な書類を記載し、指導医に提案できる。
11. 地域医療の魅力とやりがいを理解し実践できる。
12. ICTを活用した的確な情報収集ができる
13. 地域医療実習経験を通じて、医師のプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力、様々な患者背景を考慮した総合的な診療能力を幅広く向上する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

実習手引き※後日配付

各病院における推薦図書など

5. 成績評価の方法

各受入病院の臨床教授等による評価, 提出実習レポート評価, 実習出席状況及び実習態度を評価する。CC-EPOC の入力状況も評価対象となる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※本科目は「秋田大学 COC キャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である

医人材 - 350
令和6年8月9日

厚生労働省医政局長 様

秋田県健康福祉部長
(公印省略)

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和6年8月7日付け6文科高第738号、医政発0807第5号に基づき、下記のとおり、令和7年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

29名

・秋田大学医学部における地域枠：29名

担 当 : 医務薬事課医療人材対策室 菊池
電話番号 : 018-860-1410
メールアドレス : Kikuchi-Takafumi@pref.akita.lg.jp

教育課程等の概要																	
(医学部医学科等)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門科目	基礎医学Ⅰ	細胞の構成と機能Ⅰ	1前	○	0.5			○			1						
	基礎医学Ⅰ	生体物質の代謝Ⅰ	1前	○	0.5			○			1	1			2		
	基礎医学Ⅱ	細胞の構成と機能Ⅱ	1後	○	0.5			○			1				1		
	基礎医学Ⅱ	生体物質の代謝Ⅱ	1後	○	1			○			1				2		
	基礎医学Ⅱ	人体解剖学入門、骨学実習	1後	○	1			○			1	1			1		※実習
	基礎医学Ⅱ	個体の発生	1後	○	1			○			1		1		1		2
	基礎医学Ⅱ	個体・細胞の分子生化学	1後	○	1			○			2	1			1		1
	基礎医学Ⅱ	生体分子解析学実習	1後	○	2				○		2	1			3		
	医療・社会・行動科学Ⅰ	医療行動科学	1後	○	3			○			1				1		3
	基礎医学Ⅲ	個体の構成、人体解剖学実習	2前	○	8			○			1	1			1		2
	基礎医学Ⅲ	組織学、組織学実習	2前	○	3			○			1		1		1		※実習
	基礎医学Ⅲ	臓器の機能Ⅰ	2前	○	4			○			2		1				1
	基礎医学Ⅳ	臓器の機能Ⅱ	2後	○	1			○			2		1				
	基礎医学Ⅳ	生体と微生物	2後	○	1			○			1	1			2		
	基礎医学Ⅳ	免疫と生体防御	2後	○	1			○			2		1				
	基礎医学Ⅳ	生体と薬物	2後	○	2			○			1				1		
	基礎医学Ⅳ	生体と放射線・電磁波・超音波	2後	○	0.5			○			1		1		3		
	基礎医学Ⅳ	原因と病態、病理学実習	2後	○	4			○			4		1		2		9
	基礎医学Ⅳ	生体機能学実習	2後	○	2				○		3						1
	基礎医学Ⅳ	感染症・生体防御学実習	2後	○	2				○		2		1		2		※講義
	医療・社会・行動科学Ⅱ	環境と健康	2後	○	1			○			1	1			4		2
	医療・社会・行動科学Ⅱ	医の倫理と原則	2後	○	1			○			3						2
	医療・社会・行動科学Ⅱ	地域医療・コミュニケーションとチーム医療	2後	○	1			○			1		1				5
	基礎医学アドバンスコース	細胞生物学	2後	○		1		○			1		1		1		1
	基礎医学アドバンスコース	生体防御学	2後	○		1		○			1		1				
	基礎医学アドバンスコース	器官・統合生理学	2後	○		1		○			1	1			1		1
	基礎医学アドバンスコース	微生物学	2後	○		1		○			1						
	基礎医学アドバンスコース	細胞生理学	2後	○		1		○			1				1		
	基礎医学アドバンスコースⅠ	病理学Ⅰ	2後	○		1		○			1				1		
	基礎医学アドバンスコース	病理学Ⅱ	2後	○		1		○			1		1		1		
	基礎医学アドバンスコース	分子機能学・代謝機能学	2後	○		1		○			1				2		
	基礎医学アドバンスコース	形態解析学・器官構造学	2後	○		1		○			1	1					2
	基礎医学アドバンスコース	情報制御学・実験治療学	2後	○		1		○			1				2		
	基礎医学アドバンスコース	分子生化学	2後	○		1		○			1	1			1		
	基礎医学アドバンスコース	衛生学・公衆衛生学	2後	○		1		○			1	1			4		
	基礎医学アドバンスコース	医学教育学Ⅰ	2後	○		1		○				1					
	基礎医学アドバンスコース	医療情報学	2後	○		1		○			1	1					
	基礎医学アドバンスコース	医学教育学Ⅱ	2後	○		1		○			1	1	1				
	研究配属	研究配属	3前	○	6			○			15						2
	医療・社会・行動科学Ⅲ	疫学と予防医学	3後	○	1			○			1				4		
	医療・社会・行動科学Ⅲ	生活習慣病と臨床研究	3後	○	1			○			5				5		5
	医療・社会・行動科学Ⅲ	保健と福祉の制度	3後	○	1			○			2				4		3
	医療・社会・行動科学Ⅲ	社会医学実習	3後	○	1				○		1				4		※講義
	医療・社会・行動科学Ⅲ	感染症・感染防御	3後	○	1			○			2		1				4
	臨床医学Ⅰ	循環器	3前	○	3			○			3	1	4		9		8
	臨床医学Ⅰ	呼吸器	3前	○	2			○			4	3	2		3		11
	臨床医学Ⅰ	消化器	3前	○	3			○			3	3	2		11		2
	臨床医学Ⅰ	腎	3後	○	1				○		1				3		2
	臨床医学Ⅰ	尿路・男性生殖器	3後	○	1			○			1	3			3		4
	臨床医学Ⅱ	加齢と老化、内分泌・栄養・代謝	3前	○	2.5			○			4	1	2		3		1
	臨床医学Ⅱ	神経	3後	○	3			○			2		3		4		8
	臨床医学Ⅱ	運動器(筋骨格)	3後	○	2			○			3	2	4		4		5
	臨床医学Ⅱ	血液・造血器・リンパ	3後	○	2			○			1		4		2		
	臨床医学Ⅱ	リハビリテーション	3後	○	1			○			5	3			1		1
	臨床医学Ⅱ	乳房	3後	○	0.5			○				1	1		1		1
	臨床医学Ⅱ	女性生殖器	3後	○	1			○			3	1			2		2
	臨床医学Ⅱ	免疫・アレルギー疾患・膠原病	3後	○	1			○			2				3		2
	臨床医学Ⅱ	腫瘍	3後	○	0.5			○			1		1		1		2
	臨床医学Ⅱ	妊娠と分娩	3後	○	1			○			1		1		1		5
	臨床医学Ⅱ	成長と発達	3後	○	2			○			2		5		2		6
	臨床医学Ⅱ	耳鼻・咽喉・口腔	3後	○	1			○			4	2	1		5		2
	臨床医学Ⅱ	放射線診断と治療	3後	○	1				○		1		1		6		3
	医療・社会・行動科学Ⅳ	診療情報	4前	○	0.5			○			1	1					2
	医療・社会・行動科学Ⅳ	人の死・死と法	4前	○	1			○			1				1		5
	医療・社会・行動科学Ⅳ	医療における安全性確保	4前	○	0.5			○			2	1	1				2
	臨床医学アドバンスコース	血液・腎臓・膠原病内科学	4前	○		0.5		○			1		3		5		
	臨床医学アドバンスコース	放射線医学	4前	○		0.5		○			1				3		
	臨床医学アドバンスコース	精神科学	4前	○		0.5		○			1	1			4		2
	臨床医学アドバンスコース	皮膚科学・形成外科学	4前	○		0.5		○			2				5		
	臨床医学アドバンスコース	総合診療・検査診断学	4前	○		0.5		○			2	1			2		
	臨床医学アドバンスコース	麻酔・蘇生・疼痛管理学	4前	○		0.5		○			1	1	1				
	臨床医学アドバンスコース	代謝・内分泌内科学	4前	○		0.5		○			1						
	臨床医学アドバンスコース	小児科学	4前	○		0.5		○			1		2		1		2
	臨床医学アドバンスコース	循環器内科学	4前	○		0.5		○			1		1		3		

臨床医学アドバンスコース	臨床腫瘍学	4前	○	0.5	○		4		2	1				
臨床医学アドバンスコース	呼吸器内科学	4前	○	0.5	○		1	1	1	2				
臨床医学アドバンスコース	整形外科	4前	○	0.5	○		2	2	4	4				
臨床医学アドバンスコース	心臓血管外科学	4前	○	0.5	○		1		1	2				
臨床医学アドバンスコース	救急・集中治療医学	4前	○	0.5	○		1	1		1				
臨床医学アドバンスコース	消化器外科学・消化器内科学・食道外科学	4前	○	1	○		4	2	1	3				
臨床医学アドバンスコース	眼科学	4前	○	0.5	○		1			1		2		
臨床医学アドバンスコース	胸部外科学Ⅰ	4前	○	0.5	○			1	1			1		
臨床医学アドバンスコース	胸部外科学Ⅱ	4前	○	0.5	○			1	1	1		1		
臨床医学アドバンスコース	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	4前	○	0.5	○			1	1	1		1		
臨床医学アドバンスコース	小児外科学	4前	○	0.5	○			1		1				
臨床医学アドバンスコース	脳神経外科学	4前	○	0.5	○		1		2	1				
臨床医学アドバンスコース	腎泌尿器科学	4前	○	0.5	○		1	3		4				
臨床医学アドバンスコース	産婦人科学	4前	○	0.5	○		1	1	2	4				
臨床医学アドバンスコース	リハビリテーション	4前	○	0.5	○			1		1				
臨床医学アドバンスコース	歯科口腔外科学	4前	○	0.5	○		1	1		3				
臨床医学Ⅲ	精神	4前	○	2	○		1	1		4		3		
臨床医学Ⅲ	皮膚	4前	○	1	○		1					4		
臨床医学Ⅲ	眼・視覚	4前	○	1	○		1	1				12		
臨床医学Ⅲ	麻酔	4前	○	0.5	○		1	1	1	3		1		
臨床医学Ⅲ	薬物治療の基本原理	4前	○	1	○		4		4	2		1		
臨床医学Ⅲ	外科治療と周術期管理	4前	○	0.5	○		2	2	3	2		1		
臨床医学Ⅲ	救急疾患	4前	○	0.5	○		1	1		5				
臨床医学Ⅲ	物理・化学的因子による疾患	4前	○	0.5	○		1	1		5				
臨床医学Ⅲ	総合診療・臨床検査	4前	○	1	○		2	1		6		7		
臨床医学Ⅲ	基本的診療技能	4前	○	4	○		1							
臨床医学Ⅳ	医学医療総合講義Ⅰ	4後	○	2	○		1							
臨床医学Ⅴ	医学医療総合講義Ⅱ	5前	○	2	○		1							
臨床医学Ⅳ	臨床実習Ⅰ	4後	○	20		○	30	19	25	73		6		
臨床医学Ⅴ	臨床実習Ⅱ	5前	○	14		○	30	19	25	73		6		
臨床医学Ⅵ	臨床実習Ⅲ	5後	○	26		○	28	14	28	71		2		
臨床医学Ⅶ	臨床実習Ⅳ	6前	○	14		○	28	14	28	71		2		
小計 (106 科目)		-	-	174	28	-	34	19	25	73		102		
教養教育科目 (自由選択)	教養ゼミナールⅠ (現代社会) -社会的諸課題と学問-	1②		1		○						1		
	教養ゼミナールⅠ (現代社会) -リフレクティブ・プラクティスへの招待-	1②		1		○						1	※講義	
	法学入門Ⅰ	1①		1		○						1	メディア	
	法学入門Ⅱ	1②		1		○						1	メディア	
	日本国憲法Ⅰ	1①		1		○						1	メディア	
	日本国憲法Ⅱ	1②		1		○						1	メディア	
	現代社会と経済Ⅰ	1①		1		○						1		
	現代社会と経済Ⅲ	1①		1		○						1	メディア	
	現代社会と経済Ⅳ	1②		1		○						1	メディア	
	現代社会と経済Ⅴ	1③		1		○						1	メディア	
	現代社会と経済Ⅵ	1④		1		○						1	メディア	
	現代社会と企業経営Ⅰ	1①		1		○						1		
	現代社会と企業経営Ⅱ	1②		1		○						1		
	現代社会と政治Ⅰ	1①		1		○						1		
	現代社会と政治Ⅱ	1②		1		○						1		
	国際政治経済Ⅰ	1①		1		○						1	メディア	
	国際政治経済Ⅱ	1②		1		○						1	メディア	
	社会と家族Ⅰ	1③		1		○						1	メディア	
	社会と家族Ⅱ	1④		1		○						1	メディア	
	倫理リテラシーⅠ	1①		1		○						1		
	倫理リテラシーⅡ	1②		1		○						1		
	男女共同参画社会論	1③		1		○						2	※演習・メディア	
	社会と地域Ⅰ	1①		1		○						1	メディア	
	社会と地域Ⅱ	1②		1		○						1	メディア	
	観光学入門Ⅰ	1③		1		○						1	メディア	
	観光学入門Ⅱ	1④		1		○						1	メディア	
	地誌学入門Ⅰ	1①		1		○						1	※実習	
	地誌学入門Ⅱ	1②		1		○						1	※実習	
	金融リテラシー講座Ⅰ	1①		1		○						1		
	金融リテラシー講座Ⅱ	1②		1		○						1		
	教養ゼミナールⅠ (人間と文化) -伝説の小学校算数教科書-	1①		1		○						1	※演習・メディア	
	教養ゼミナールⅠ (人間と文化) -音楽文化の過去と現在-	1①		1		○						1		
	教養ゼミナールⅠ (人間と文化) -animacy perceptionを探索する-	1②		1		○						1		
	教養ゼミナールⅠA (人間と文化) -実験で学ぶ食と生物学-	1②		1			○					1	メディア	
	教養ゼミナールⅠ (人間と文化) -国語教育から多様性 (diversity) を考える-	1③		1		○						1	※演習	
	教養ゼミナールⅠ (人間と文化) -ドイツ語圏の音楽と文化-	1③		1		○						1		
	教養ゼミナールⅠ (人間と文化) -学習意欲の科学への招待-	1③		1		○						1	※演習	
	心理学Ⅰ	1①		2		○						1		
	心理学Ⅱ	1②		1		○						1		
	人間関係論Ⅰ	1①		2		○			1					
	人間関係論Ⅱ	1③		2		○			1					
現代社会と教育Ⅰ	1③		1		○						1			
現代社会と教育Ⅱ	1④		1		○						1			
子ども家庭支援論Ⅰ	1③		1		○						1	※演習		
子ども家庭支援論Ⅱ	1④		1		○						1	※演習		
障害者と社会参加の基礎	1①		1		○						1	※演習		
障害者と社会参加の実践	1②		1		○						1	※演習		
芸術と文化Ⅰ	1①		1		○						1			
芸術と文化Ⅱ	1②		1		○						1			
情報デザインⅠ	1①		1		○						1	メディア		
情報デザインⅡ	1②		1		○						1	メディア		
哲学入門Ⅰ	1③		1		○						1			
哲学入門Ⅱ	1④		1		○						1			
西洋社会の歴史Ⅰ	1①		1		○						1			

西洋社会の歴史Ⅱ	1②		1	○								1	
科学史入門Ⅰ	1①		1	○								1	※演習
科学史入門Ⅱ	1②		1	○								1	※演習
多文化コミュニケーション入門Ⅰ	1①		2		○							1	
多文化コミュニケーション入門Ⅱ	1②		2		○							1	
多文化コミュニケーション入門Ⅲ	1③		1		○							1	
多文化コミュニケーション入門Ⅳ	1④		1		○							1	
日本文化入門Ⅰ	1①		2		○							1	
日本文化入門Ⅱ	1②		2		○							1	
日本文化入門Ⅲ	1③		1		○							1	
日本文化入門Ⅳ	1④		1		○							1	
日本社会入門Ⅰ	1①		2		○							1	
日本社会入門Ⅱ	1②		2		○							1	
日本社会入門Ⅲ	1③		1		○							1	
日本社会入門Ⅳ	1④		1		○							1	
日本語教育学入門Ⅰ	1①		2		○							1	
日本語教育学入門Ⅱ	1②		2		○							1	
日本語教育学入門Ⅲ	1③		1		○							1	
日本語教育学入門Ⅳ	1④		1		○							1	
Introduction to Participatory WorkshopsⅠ	1①		1		○							1	
Introduction to Participatory WorkshopsⅡ	1②		1		○							1	
Introduction to Participatory WorkshopsⅢ	1③		1		○							1	※実習
Introduction to Participatory WorkshopsⅣ	1④		1		○							1	※実習
Japanese in Indonesia(1600-1945)	1③		1		○							1	
Modern Indonesian History	1④		1		○							1	
インドネシア語入門Ⅰ	1①		2		○							1	
インドネシア語入門Ⅱ	1②		2		○							1	
Japanese Culture	1①		1		○							1	
Japanese Thought	1③		1		○							1	
教養ゼミナールⅠ（科学の探究）－持続可能な開発目標（SDGs）が求める科学技術とは－	1②		1		○							1	
教養ゼミナールⅠ（科学の探究）－生活の中の数と図形－	1③		1		○							1	※演習
地球環境と化学元素	1①		1		○							1	メディア
環境モニタリングと大気化学	1②		1		○							1	メディア
有機資源の産業利用と環境保全	1①		1		○							1	メディア
天体観測入門	1①		1		○							1	※実習
地球の環境と資源Ⅰ	1①		2		○							2	
地球の環境と資源Ⅱ	1②		1		○							2	
地球の環境と資源Ⅲ	1①		1		○							1	メディア
ライフサイエンスⅠ	1①		2		○							1	メディア
ライフサイエンスⅡ	1②		1		○							1	※演習
ライフサイエンスⅢ	1①		1		○							1	メディア
化学の世界	1②		1		○							2	メディア
材料の世界	1②		1		○							4	メディア
コンピュータの科学Ⅰ	1①		1		○							2	
コンピュータの科学Ⅱ	1②		1		○							2	
はじめての天文学	1②		1		○							1	メディア
自然環境と住まいⅠ	1③		1		○							1	
自然環境と住まいⅡ	1④		1		○							1	
自然地理学入門Ⅰ	1①		1		○							1	メディア
自然地理学入門Ⅱ	1②		1		○							1	メディア
Environment and engineering	1③		1		○							1	
情報学入門	1①		1		○							1	※演習
AⅠ学入門	1②		1		○							1	※演習
データサイエンス学入門Ⅰ	1③		1		○							2	メディア
データサイエンス学入門Ⅱ	1④		1		○							2	メディア
教養ゼミナールⅠ（生活と保健）－超高齢社会の医療と保健・福祉－	1①		1		○							1	
教養ゼミナールⅠ（生活と保健）－からだへの気づき－	1②		1		○							1	※実習
教養ゼミナールⅠ（生活と保健）－「人は誰でもミスをする」を前提とした医療安全－	1②		1		○			1					
教養ゼミナールⅠ（生活と保健）－アレルギーを学ぼう－	1③		1		○							1	※演習
教養ゼミナールⅠ（生活と保健）－人間関係と暴力（DV・虐待）－	1③		1		○			1		1		3	メディア
食と健康Ⅰ	1①		1		○							1	メディア
食と健康Ⅱ	1②		1		○							1	メディア
医学と健康Ⅰ	1①		1		○			1			6		メディア
医学と健康Ⅱ	1①		1		○			2		1	1		メディア
医学と健康Ⅲ	1①		1		○			4	3		1		メディア
医学と健康Ⅳ	1②		1		○			1					
がん医療と緩和ケア	1③		2		○			3	1	1	1		メディア
大学生と健康	1①		2		○							1	メディア
生命と健康Ⅰ	1③		1		○			1					
生命と健康Ⅱ	1①		1		○				1			4	
臨床医学入門Ⅰ	1①		1		○			1					
臨床医学入門Ⅱ	1②		1		○			1					
グローバル・ヘルスとトラベル・メディシン	1②		1		○			2	1		2	1	メディア
教養ゼミナールⅠA（地域志向）－地域医療の問題点－	1①		1		○			1					
教養ゼミナールⅠ（地域志向）－雪国防災学入門－	1④		1		○							1	※実習
秋田の歴史	1①		1		○							1	
秋田の自然と文化	1②		1		○							8	
防災学基礎Ⅰ	1①		1		○							1	
防災学基礎Ⅱ	1②		1		○							1	
農村地理学入門Ⅰ	休講												
農村地理学入門Ⅱ	休講												
キャリアデザイン基礎	1②		1		○							1	
起業力養成ゼミナールⅠ	1①		1		○							1	※演習
起業力養成ゼミナールⅡ	1②		1		○							1	※演習
起業力養成ゼミナールⅢ	1③		1		○							1	※演習
スタートアップ実践	休講												
地域キャリアデザイン	1②		1		○							1	

秋田の暮らし	1②		1	○								3	※演習
超高齢社会と健康寿命	1④		1	○		2						8	※演習・メディア
秋田の産業	1③		1	○								1	※演習・メディア
秋田の再生可能エネルギー	1②		1	○								1	
地方創生DX基礎 1	1①		1	○								3	
地方創生DX基礎 2	1②		1	○								3	
地方創生DX基礎実践	1③		1	○								3	
教養ゼミナール1 (技能の活用) -データの統計処理と論文作成-	1②		1	○								1	
教養ゼミナール1 (技能の活用) -英語で楽しむものづくり-	1③		1	○	○							1	
日本語リテラシー I	1①		2	○								1	※実習
日本語リテラシー II	1②		2	○								3	
日本語リテラシー III	1③		1	○								2	
日本語リテラシー IV	1④		1	○								2	
秋田大学論	1②		1	○								8	メディア
データサイエンスリテラシー概論	1休		1	○								1	メディア
情報と知識・技術	1②		1	○								1	
フィールド活動の基礎 I	1③		1	○								1	
フィールド活動の基礎 II	1④		1	○								1	
留学生のための課題研究 I	1③		2	○								1	
留学生のための課題研究 II	1④		2	○								1	
留学生のための課題研究 III	1①		1	○								1	
留学生のための課題研究 IV	1②		1	○								1	
鉱業博物館業務体験	1通		1					○				1	
ドイツ語 I A	1①		2	○								1	
ドイツ語 II A	1②		1	○								1	
フランス語 I	1①		2	○								1	
フランス語 II	1②		1	○								1	
ロシア語 I	1①		2	○								1	
ロシア語 II	1②		1	○								1	
中国語 I B	1①		2	○								1	※演習
中国語 II B	1②		1	○								1	※演習
朝鮮語 I B	1①		2	○								1	
朝鮮語 II B	1②		1	○								1	
ドイツ語 III	1③		1	○								1	
ドイツ語 IV	1④		1	○								1	
フランス語 III	1③		1	○								1	
フランス語 IV	1④		1	○								1	
ロシア語 III	1③		1	○								1	
ロシア語 IV	1④		1	○								1	
中国語 III	1③		1	○								1	※演習
中国語 IV	1④		1	○								1	※演習
朝鮮語 III	1③		1	○								1	
朝鮮語 IV	1④		1	○								1	
日本語 2-1	1①		2	○								1	※演習
日本語 2-2	1②		2	○								1	※演習
日本語 2 総合 1	1①		0.5	○								1	
日本語 2 総合 2	1②		0.5	○								1	
ドイツ語会話 I	1③		0.5	○								2	メディア
ドイツ語会話 II	1④		0.5	○								2	メディア
フランス語会話 I	1休		0.5	○								1	メディア
フランス語会話 II	1休		0.5	○								1	メディア
ロシア語会話 I	1①		0.5	○								1	
ロシア語会話 II	1②		0.5	○								1	
中国語会話 I	1①		0.5	○								1	
中国語会話 II	1②		0.5	○								1	
朝鮮語会話 I	1①		0.5	○								1	
朝鮮語会話 II	1②		0.5	○								1	
日本語 3-1	1①		2	○								1	
日本語 3-2	1②		2	○								1	
日本語 3 総合 1	1③		0.5	○								1	
日本語 3 総合 2	1④		0.5	○								1	
日本語 4-I-1	1①		1	○								2	
日本語 4-I-2	1②		1	○								2	
日本語 4-II-1	1③		1	○								2	
日本語 4-II-2	1④		1	○								2	
日本語 4-III-1	1①		1	○								1	
日本語 4-III-2	1②		1	○								1	
日本語 4-IV-1	1③		1	○								1	
日本語 4-IV-2	1④		1	○								1	
日本語 4-V-1	1①		0.5	○								1	
日本語 4-V-2	1②		0.5	○								1	
日本語 4-VI-1	1③		0.5	○								1	
日本語 4-VI-2	1④		0.5	○								1	
日本語 5-I-1	1①		0.5	○								1	
日本語 5-I-2	1②		0.5	○								1	
日本語 5-II-1	1③		0.5	○								1	
日本語 5-II-2	1④		0.5	○								1	
日本語 5-III-1	1①		0.5	○								1	
日本語 5-III-2	1②		0.5	○								1	
日本語 5-IV-1	1③		0.5	○								1	
日本語 5-IV-2	1④		0.5	○								1	
日本語 5-V-1	1①		0.5	○								1	
日本語 5-V-2	1②		0.5	○								1	
日本語 5-VI-1	1③		0.5	○								1	
日本語 5-VI-2	1④		0.5	○								1	
日本語 5-VII-1	1①		0.5	○								1	
日本語 5-VII-2	1②		0.5	○								1	

